

第5期みやぎ観光戦略プランの
令和6年度の実施状況について
(みやぎ観光創造県民条例第12条に基づく報告)

令和7年6月

宮城県経済商工観光部

目 次

1	本報告書について	1
2	観光王国みやぎの実現とみやぎの観光の再生に向けた取組	2
3	「第5期みやぎ観光戦略プラン」の数値目標について	4
4	各数値目標の推移	5
5	令和6年度事業の実施状況	6
	回復戦略 感染症により落ち込んだ観光需要の回復	7
	成長戦略1 魅力あふれる観光地づくり	21
	成長戦略2 観光産業の体制強化	41
	成長戦略3 受入環境の整備促進	52
	成長戦略4 戦略的な誘客プロモーション	57
6	基本計画の実施状況の検証	74

1 本報告書について

県は、みやぎ観光創造県民条例（平成 23 年宮城県条例第 8 号。以下「条例」という。）第 12 条第 1 項の規定により、観光振興に関する施策を戦略的かつ積極的に推進し、観光王国みやぎの実現を図るため、条例第 11 条各号に掲げる基本方針を踏まえ、観光振興に関する基本的な計画を定めるものとしている。また、知事は、毎年度、基本計画の実施状況を検証し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならないこととされている。

この報告書は、条例第 12 条第 3 項の規定により、毎年度議会に提出することとされている年次報告である。

参考：みやぎ観光創造県民条例（平成 23 年宮城県条例第 8 号）（抜粋）

（施策の基本方針）

第 11 条 県は、次に掲げる基本方針に基づき、観光振興に関する施策を積極的に推進するものとする。

- （1）魅力あふれる観光地づくり、おもてなしの心の向上等の観光王国みやぎの実現のための取組を、会議の設置等県民総参加による運動として進めること。
- （2）恵まれた自然、歴史、文化、景観、食、温泉その他の観光資源の保全、創造及び活用の取組への支援及び促進を図り、国際競争力及び国内競争力の高い魅力ある観光地の形成を図ること。
- （3）観光に関する施設の整備、道路の整備、交通機能の充実その他の観光に関する社会基盤の整備を促進すること。
- （4）観光事業者への必要な情報提供等の支援、観光事業者相互の連携及び観光事業者と産業観光など地域産業との連携の促進等により観光産業の競争力を強化することで、観光事業者の育成及び経営基盤の強化を図ること。
- （5）観光事業に従事する者等の知識及び能力の向上、観光ボランティア等の育成その他の観光振興に寄与する人材の育成に関する取組を促進すること。
- （6）大学等が観光振興に寄与する人材の育成等のために実施する教育活動へ協力すること。
- （7）外国人観光客の受入環境の整備、市町村、近隣の県等との広域的な連携による取組その他の多様な誘客活動により、東アジアをはじめ海外からの観光客を積極的に誘致し、国際観光の振興及び国際相互交流を促進すること。
- （8）多様な媒体を活用した国内外への戦略的な観光情報の発信その他の情報発信の充実のために必要な施策を実施すること。
- （9）グリーンツーリズムの更なる推進、スポーツツーリズム、コンテンツツーリズム、ヘルスツーリズム、エコツーリズム等の新しい観光分野の開拓、会議、展示会、映画撮影等の誘致及び観光客の受入態勢の整備等の取組を充実すること。
- （10）県民等が主体となって行う食、文化、音楽、芸術等に関するイベント等との連携を図るとともに、これらのイベント等に対する必要な支援を行うこと。
- （11）高齢者、障がい者及び外国人をはじめすべての観光客が安全に、安心して、快適に観光を楽しむことができる態勢の整備を促進すること。
- （12）観光地における生活環境の美化並びに良好な景観の保全及び形成を促進するために必要な支援を行うこと。
- （13）県民総参加による観光振興に取り組む意識を高めるため、観光に関する広報活動、教育活動等を積極的に実施すること。

（基本計画）

第 12 条 知事は、観光振興に関する施策を戦略的かつ積極的に推進し、観光王国みやぎの実現を図るため、前条に掲げる基本方針を踏まえ、観光振興に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を定めるものとする。

2 知事は、基本計画を定めるに当たっては、市町村、県民等の意見が反映されるよう必要な措置を講ずるとともに、宮城県産業振興審議会に諮問するものとする。

3 知事は、毎年度、基本計画の実施状況を検証し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 観光王国みやぎの実現とみやぎの観光の再生に向けた取組

県では、令和4年10月から令和7年3月までを計画期間とする基本計画「第5期みやぎ観光戦略プラン」(令和4年9月策定)を定め、条例の基本方針を踏まえながら、新・宮城の将来ビジョンの分野別計画として、5つの観光戦略プロジェクトに基づき、幅広く各種施策を実施している。

第5期みやぎ観光戦略プラン

みやぎ観光創造県民条例第12条第1項に掲げる基本計画

新・宮城の将来ビジョンの分野別計画

宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興

5つの観光戦略プロジェクト

回復戦略	感染症により落ち込んだ観光需要の回復
(1)安全・安心の機運醸成と可視化による選ばれる観光地づくり (2)回復フェーズに応じた取組推進と観光資源の魅力の再発見	
成長戦略1	魅力あふれる観光地づくり
(1)特色ある地域資源の発掘・磨き上げと観光コンテンツの充実 (2)観光に対する地域住民や旅行者の意識醸成 (3)震災の経験を生かした復興ツーリズムや教育旅行の展開	
成長戦略2	観光産業の体制強化
(1)地域経済循環力の強化 (2)地域を支える観光人財 ^{じんざい} の育成・確保	
成長戦略3	受入環境の整備促進
(1)旅行者の安全・安心確保 (2)多様化する旅行者の受入環境整備	
成長戦略4	戦略的な誘客プロモーション
(1)旅行者のニーズやターゲットに応じた戦略的プロモーション (2)東北各県や東北観光推進機構等と一体となった広域周遊観光の促進	

5つの観光戦略プロジェクトの具体的な取組

回復戦略：感染症により落ち込んだ観光需要の回復

- (1) 安全・安心の機運醸成と可視化による選ばれる観光地づくり
 - 観光地として選ばれるための安全・安心の対策とその見える化の取組
 - 入国制限緩和を見据えたインバウンドへの取組
- (2) 回復フェーズに応じた取組推進と観光資源の魅力の再発見
 - 社会経済活動の回復フェーズや新たな旅のスタイルに対応した取組の推進
 - アウトドアコンテンツをはじめとする地域の魅力の再発見と旅行客の受入体制の構築
 - 交流人口に加え、関係人口の創出・拡大の取組

成長戦略1：魅力あふれる観光地づくり

- (1) 特色ある地域資源の発掘・磨き上げと観光コンテンツの充実
 - 食・自然・歴史・文化等の地域資源の発掘・磨き上げ
 - サステナブルツーリズム（持続可能な観光）の推進
 - 地域の独自性を売りにした体験型観光プログラムやデジタルを活用した観光コンテンツの造成
- (2) 観光に対する地域住民や旅行者の意識醸成
 - 地域住民の郷土への誇りや愛着の醸成
(観光客と地域住民の交流促進、おもてなし講座の開催、地域におけるふるさと教育の推進)
 - 旅行者や地域住民の自然環境の保全や旅行マナー等に関する意識の醸成
- (3) 震災の経験を生かした復興ツーリズムや教育旅行の展開
 - 震災の教訓を伝承するとともに、防災・減災学習など学びの機会の創出
 - 震災を契機とした地域との関係性の継続・深化

成長戦略2：観光産業の体制強化

- (1) 地域経済循環力の強化
 - 農林水産業などの他産業との連携強化やコト消費への転換、スポーツ、コンテンツツーリズム等や文化・音楽、芸術イベント等との連携
 - 地域の価値向上や空間的^{じんざい}魅力の創出による観光地の高付加価値化
- (2) 地域を支える観光人財の育成・確保
 - 観光産業を牽引する「人財」の育成と活躍できる環境の整備
 - 高等学校（観光科・商業科）や大学等との連携による未来を担う観光人財の育成

成長戦略3：受入環境の整備促進

- (1) 旅行者の安全・安心確保
 - 災害や感染症等発生時の宿泊施設等の対応力・態勢強化
 - 旅行者への情報伝達態勢の整備
- (2) 多様化する旅行者の受入環境整備
 - 多言語化やキャッシュレス等の非接触化の促進、AI技術等による観光サービスの機能強化
 - ウィズコロナ・ポストコロナに適応したビジネスモデルの転換の促進
 - 地域内・広域周遊のための二次交通の利便性向上も含めた観光交通機能の強化
 - 安全性に配慮した自然公園施設等の整備

成長戦略4：戦略的な誘客プロモーション

- (1) 旅行者のニーズやターゲットに応じた戦略的プロモーション
 - デジタルマーケティングを活用したプロモーションの実施
 - 首都圏・東アジアの重点市場などのターゲットに応じた誘客プロモーション
 - 安全・安心対策の更なる可視化と確実な情報発信
- (2) 東北各県や東北観光推進機構等と一体となった広域周遊観光の促進
 - 三陸沿岸道の全線開通や世界文化遺産などを生かした広域観光ルートの充実
 - 仙台空港24時間化を契機とした航空路線誘致等による中部以西等から東北への誘客促進

3 「第5期みやぎ観光戦略プラン」の数値目標について

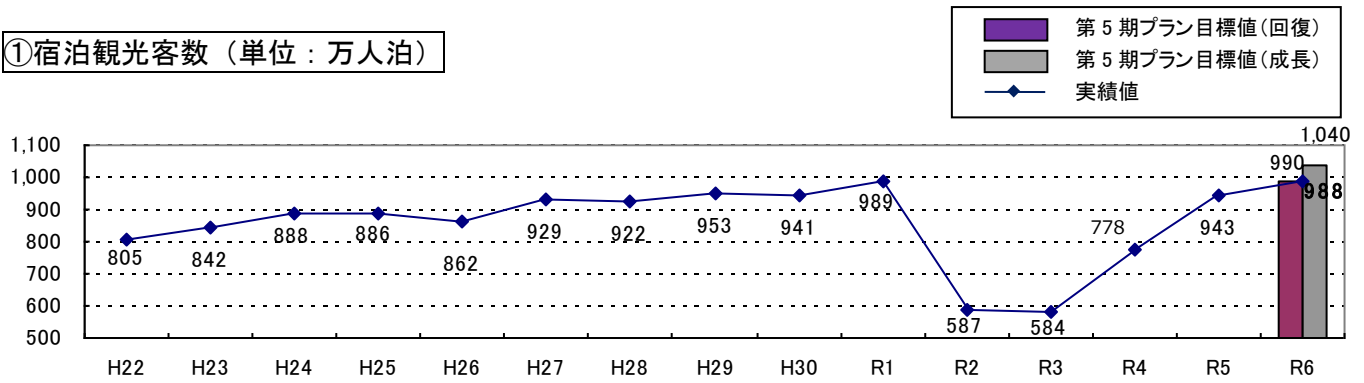
「第5期みやぎ観光戦略プラン」では、新型コロナウイルス感染症拡大により落ち込んだ観光需要を取り戻すべく、感染拡大前の水準までの回復を目指す回復目標を設定したほか、ポストコロナの観光需要を見据え、取組の加速化を図るために、成長目標を設定した。

<第5期みやぎ観光戦略プランの数値目標>

項 目	令和6年目標値	
	回復目標	成長目標
①宿泊観光客数	990 万人泊	1,040 万人泊
②外国人観光客宿泊者数	50 万人泊	70 万人泊
③観光消費額（観光庁共通基準による観光客入込統計）	3,990 億円	4,200 億円

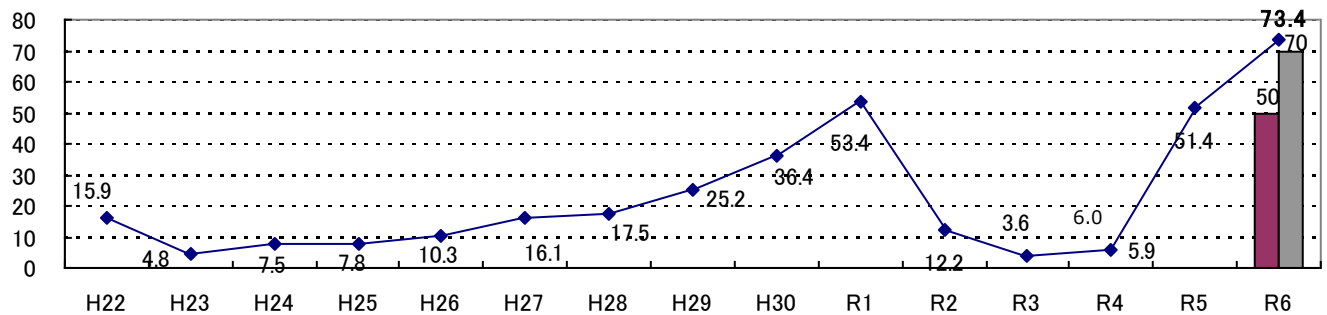
4 各数値目標の推移

①宿泊観光客数（単位：万人泊）



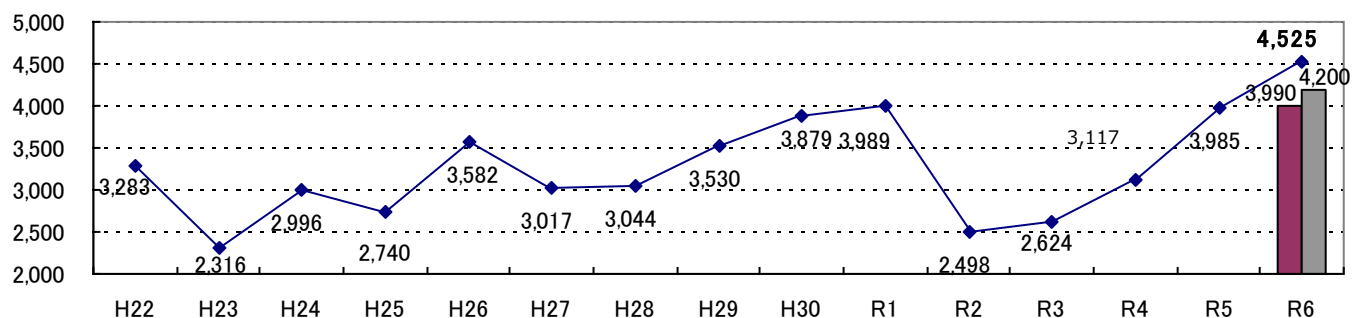
令和6年の「宿泊観光客数」は 988 万人泊で、前年との比較では 45 万人泊の増加（4.8%の増）となった。

②外国人観光客宿泊者数（単位：万人泊）



令和6年の「外国人観光客宿泊者数」は 73.4 万人泊で、前年との比較では 22 万人泊の増加（42.8%の増）となった。

③観光消費額（単位：億円）



令和6年の「観光消費額」は 4,525 億円で、前年との比較では 540 億円の増加（13.6%の増）となった。

※出典：①—令和6年観光統計概要の速報値

②—観光庁宿泊旅行統計調査(従業者数 10 人以上の施設)の速報値

③—観光庁観光入込客統計に関する共通基準

5 令和6年度事業の実施状況

東日本大震災からの復旧・復興の14年目及び新たな第6期みやぎ観光戦略プランを策定した令和6年度は、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復が進む中で、ポストコロナの観光需要の回復を見据えて観光地域の持続的な発展に向けた施策を着実に推進した。

具体的には、効果的な観光施策の立案等のため、東北観光推進機構が保有するデータ集積基盤である「東北観光DMP」を活用し、広域での観光動向分析等を実施した。また、外国人誘客促進のため、インバウンド向け多言語ホームページを運営してデジタルを活用した魅力発信を行うだけでなく、首都圏中学校長を対象とした教育旅行モニターツアーを開催して教育旅行の誘致の促進を行った。

このほか、受入環境整備として、宿泊施設及び観光施設の改修に係る取組みの支援を行うだけでなく、荒廃した県内の登山道や遊歩道の整備や広域観光案内板の盤面更新を行った。

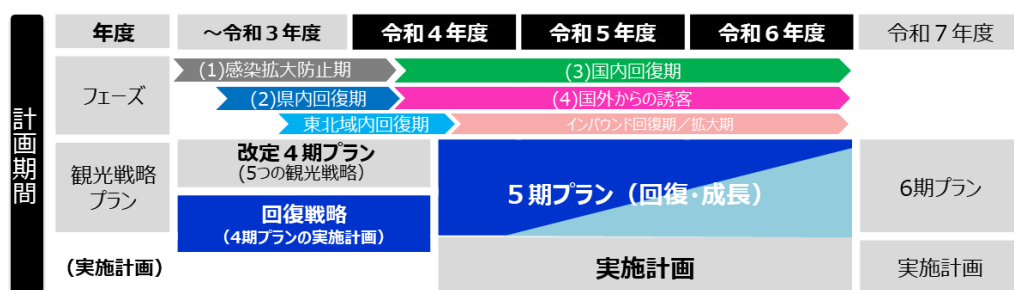
上記の取組を含め、基本理念として掲げたウィズコロナ・ポストコロナへの対応とともに、デジタル変革を進め、地域内外から選ばれる持続可能な観光地域づくりに向けて、5つの観光戦略プロジェクトに沿った280事業を実施した。

項目	事業	事業数	事業費計
【回復戦略】感染症により落ち込んだ観光需要の回復		55事業	1,292,154千円
【成長戦略1】魅力あふれる観光地づくり		94事業	1,576,086千円
【成長戦略2】観光産業の体制強化		44事業	764,479千円
【成長戦略3】受入環境の整備促進		25事業	865,549千円
【成長戦略4】戦略的な誘客プロモーション		62事業	1,781,864千円
合計（再掲含む）		280事業	6,280,132千円
合計（再掲除く）		115事業	3,850,135千円

本プランでは、感染症の影響による観光需要の回復フェーズを以下の4段階に整理した上で、各段階に応じた対策や季節変動に応じた切れ目のない取組を進めていきます。

なお、感染拡大の波は一定期間繰り返されることが想定されるため、感染の状況に応じ、弾力的に取り組んでいきます。

（取組のイメージ）



(1)感染拡大防止期 …徹底した感染拡大防止対策を講じる時期(積極的助走期間)

(2)県内回復期 …近隣日帰り旅行や県内宿泊旅行による県内流動の回復期

(3)国内回復期 …国内の滞在型旅行による国内流動の回復期

(4)国外からの誘客 …訪日外国人旅行者の呼び戻し・社会構造変化に向けた新たな需要へのシフト
(ニューノーマルな観光の創出)

回復戦略 感染症により落ち込んだ観光需要の回復

新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ観光需要の回復と持続可能な観光地づくりに向けて、インバウンド対応の強化、地域資源の魅力向上、広域連携による観光ルートの整備、情報発信の強化など多角的な施策を展開することで、観光業を回復軌道に乗せ、その後の成長軌道に繋げていくための取組を推進した。

(1) 安全・安心の機運醸成と可視化による選ばれる観光地づくり

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
外国人観光客受入環境整備促進事業	観光戦略課	7,969	外国人が快適に観光を楽しめる環境整備のため、県内の宿泊施設や観光集客施設が行う公衆無線 LAN 機器設置や案内表示等の多言語化整備に対して支援を実施する。	・外国人観光客の満足度向上を図るため、デジタルサイネージの導入や多言語での施設紹介動画作成など、先進的な外国人観光客受入環境整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。(交付決定件数 4 件)	
風評被害等観光客実態調査事業	観光戦略課	10,509	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	・県内主要観光地での観光客(外国人観光客含む)へのアンケート調査(県内 13 地点・四半期毎)及び全国の一般消費者を対象に WEB アンケート調査(6,500 票)にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。	
小規模宿泊施設普及拡大事業	観光戦略課	12,720	外国人観光客をはじめとする多様な宿泊ニーズに対応するため、小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象にしたセミナーの開催や、小規模宿泊施設等の施設整備等に係る経費を支援する。また、外国人が快適に観光を楽しめる環境整備のため、県内の宿泊施設や観光集客施設が行う公衆無線 LAN 機器設置や案内表示等の多言語化整備に対して支援を実施する。	・県内の小規模宿泊施設の新規開業者に対し、施設整備に係る経費の一部を補助した。(交付決定件数 7 件) ・県内の小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象としたセミナーを 3 回、現地見学会を 2 回開催した。 ・外国人観光客の利便性を図るため、県内の宿泊施設、観光集客施設等における公衆無線 LAN の整備、外国語表記の整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。(交付決定件数 6 件)	
みやぎ観光デジタルプロモーション事業	観光戦略課	24,736	インバウンド回復のため、デジタルを活用し、旅行者の需要に合わせたプロモーションを実施するとともに、その結果を踏まえたインバウンド施策展開に繋げる。	・東北観光DMP活用・分析業務 効果的な観光施策の立案等のため、東北観光推進機構が保有するデータ集積基盤である「東北観光DMP」を活用し、広域での観光動向分析等を実施した。 ・みやぎ観光デジタルプロモーション事業 外国人誘客促進のため、インバウンド向け多言語ホームページ「Visit Miyagi」の運営・管理を実施(R6年度:約33万PV)するなど、デジタルを活用した本県の魅力発信を行った。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
外国人観光客誘致促進事業	観光戦略課	46,192	外国人観光客の誘客回復のため、トップセールスや旅行博出展等を実施するほか、台湾、中国のサポートデスクを活用し、セールスコールや招請事業等を一体的に行う。 併せて、SNSによる情報発信を各市場に対し一元的に実施する。	・外国人観光客誘客事業 仙台市との共同で大台南国際旅行博（R6.11.15～11.18）に出展し、入場者数は約14万人となった。 ・現地誘客促進事業 台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、更なる誘客促進を図った。 ・誘客促進情報発信事業 本県が管理する海外向け公式SNSを一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は546本。合計フォロワー数は約30万人となった。	
宮城オルレ推進事業	観光戦略課	40,032	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	・国内観光向けには「宮城オルレフェア2024(R6.9.14～10.19)」を開催し、500人以上が参加した（平成30年10月の宮城オルレオープン以降の延べ利用者数：約7.7万人）。また、新たな宮城オルレオリジナルグッズの販売を開始した。 ・新規コース開設を目指す市町を支援し、蔵王・遠刈田温泉コース及び多賀城コースが、済州オルレから条件付きで認定を得た。 ・インバウンド向けには、済州オルレウォーキングフェスティバルに本県ブースを出展し、パンフレットを配布するなど宮城オルレのPRを行った。また、韓国のトレッキング商品を扱う旅行会社6社を県単独で招請し、宮城オルレを組み込んだツアー商品の造成につなげた。	
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光戦略課	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	・国内観光向けには、InstagramフォトコンテストやJAXA角田宇宙センターでの合同ブース出展等を行った。 ・海外観光向けには、WEBメディアを活用した情報発信を行った。	
国際観光モデル地区観光施設整備事業	観光戦略課	2,263	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北3県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	・タイから栃木及び南東北への誘客に向けたプロモーション事業 ＜タイ旅行博出展事業＞ 現地旅行博にブース出展し一般来場者向けにPRしたほか、現地旅行会社を対象とした商談会を実施した。 ブース来場者数 18,786人 ＜タイ旅行会社招請事業＞ 高付加価値の団体ツアーを中心に造成しているタイ現地旅行会社4社を招請し、各県の冬の魅力と食文化を訴求した。 造成ツアー9本 造成ツアー送客数220人	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,232	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。 (1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR (2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等 (3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業 (4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。 ① 食のブランド化事業 ・3県（山形、福島）連携マルシェ（11/3）の実施（来場者数約5,875人） ・管内道の駅と連携したスイーツとみやぎ蔵王三十六景地域の逸品マルシェを年3回開催（4、5、10月） ・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨7品目、推奨品目数88品目）、リーフレットやシール、POPによる販売促進の実施 ・県庁広報展示室での展示と連動した、地域の逸品販売会の開催（12月16～18日開催 売上約115万円） ② 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 ・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、開催し、キャンペーン終了後のフォロワー数がXで約1.6万人に増加 ・管内のひなまつり情報を、「ひなの郷せんなん」として一体的に広報するポスター及びリーフレットの作成とともに、同時期に開催した「仙南冬のスタンプラリー」企画と連動した広報により、閑散期となる冬季の広域周遊につなげた。 ③ みやぎ蔵王温泉郷振興事業 ・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を活用したInstagramフォローキャンペーンを2回開催し、フォロワー数が1,682人に伸びた。 ④ 「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計4回開催	
仙南アドベンチャーツーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	984	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーツーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信として、当所ウェブサイト「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」のページを作成 ・紙媒体「仙南アドベンチャーマップ」を10,000部作成し、仙台市内の子育て施設等を中心に237箇所に配布することで、仙南圏域が子育てに適した地域であるということをアピール ・「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」に誘導するためのウェブ広告3種を実施	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	1,016	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏) (2)独自企画 秋冬周遊企画 (3)「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業	・仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。 ①夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2024」(R6.7～9月)を実施。応募総数 1,201 通 ②大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業 ・R6.11.17 SennanCyclingDay での参加者への補給食等の提供や観光 PR の実施 ③みやぎ仙南応援大使第 1 号「新井ひとみ氏」を活用した当所事業の PR	
SNS等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	— (非予算)	令和3年度に開設した公式 Twitter、令和4年度に開設した公式 Instagram をはじめ、ブログや Facebook 等の SNS を最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。	・管内の魅力ある観光や食をタイムリーに発信するため、ウェブサイトや SNS により情報発信を実施した。 令和6年度は X (旧 Twitter) 約 590 件、Instagram は 434 件、事務所ウェブサイト約 50 件、ブログは 33 件の記事を投稿した。	
3 県（宮城・山形・福島）連携広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	東北中央道の開通等により、南東北 3 県（宮城仙南・山形置賜・福島県北）の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力を多くの方に知ってもらい、3 県の相互交流を促進するため、各地域のスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。	・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3 県の計 32 店舗、25 観光スポットを周遊して、各地域のスイーツ店を 1 店舗以上及び観光スポットを 1 か所以上訪問することで応募可能となる「至福のスイーツトリップスタンプラリー」を 8 月 1 日から 11 月 30 日まで開催した。 ・総参加者数 1,649 人、応募総数 181 件 総スタンプ取得数 5,299 件、応募には至らなかったが、総閲覧者数 4,752 件の閲覧があった。	
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	990	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1 年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を超えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の講座を 2 回開催 あわせて、大河原産業高校企画ビジネス科 2 年生を対象に、連続講座 6 回と実務者との合同講座 1 回を開催した。 実務者向けステップアップセミナー：補助金申請に関するセミナー延べ 44 人参加 高校生向けセミナー：連続講座 6 回、合同講座 1 回 延べ 307 人参加	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
インバウンド受入態勢強化事業	東部地方振興事務所	543	飲食店や宿泊施設等の外国人観光客とのコミュニケーション能力向上に向けた支援を行うことにより、石巻地域におけるインバウンド受入態勢を強化する。また、世界に向け石巻地域の復興状況や魅力を発信し、新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンドを促進する。	・管内各市町、各観光協会、観光関連事業者の職員を対象に、インバウンド研修を実施した。 研修会 1回、26人 ・地域のガイド又はガイド希望者を対象に外国人観光客案内ガイド向け研修を開催した。 研修会 1回、7人 ・公式 Facebook（英語・中国語版）による情報発信を実施した。 英語版 51回、中国語版 51回	
気仙沼地方振興事務所公式 Instagram による情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	32	公式 Instagram を開設し、圏域の観光資源の魅力を効果的に情報発信する。	・圏域内観光資源の効果的な情報発信のため、公式 Instagram を運営した。 投稿数 126 件（総数 750） フォロワー増加数 491（総数 2,747）	
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— （非予算）	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「宮城オルレフェア 2024」のコースイベント（10/12）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともにイベント運営業務に従事し、プロモーション活動を支援した。	
地域資源を活用したアウトドアアクティビティ観光推進事業	気仙沼地方振興事務所	1,499	トレイル初心者や交通手段の問題で躊躇していた層の新規顧客の開拓を図るとともに、リピーター確保に繋げるため、みちのく潮風トレイルの気仙沼・南三陸セクションを4コース程度の短い区間に分け、トレイルだけでなく、地域探索や地元民との交流などを盛り込んだ日帰りイベント（仙台発着バスツアー）を実施する。	気仙沼・南三陸圏域の観光資源である「みちのく潮風トレイル」と、観光やグルメなどの体験コンテンツを組み合わせた仙台発着の日帰りバスツアーを実施することで、その魅力を広く発信するため、ツアーを仙台発着のバスツアーを計4回開催した。（参加者：計60人） また、みちのく潮風トレイルや自然や文化を体験するアドベンチャーツーリズムなどのガイドを育成するための研修会を1回開催した。（参加者：計19人）	
ガストロノミーツーリズム推進事業	気仙沼地方振興事務所	979	当圏域の気候風土が育んだ食をテーマとして、その習慣・伝統・歴史などを体験する観光コンテンツを造成し、インバウンドをはじめとする観光客の誘に繋げるもの。	気仙沼・本吉圏域の農水産物を活用して、ベジタリアンやハラルフードを摂る人向けのメニューを開発するとともに、地元飲食店等へのレシピの共有、メニュー等の多言語化により、当圏域へのインバウンド観光客の誘致及びガストロノミーツーリズムの推進を支援した。 開発メニュー：4種類 メニュー発表会参加者：29人（観光関係者、飲食事業者等） 翻訳言語数：3（インドネシア語、英語、中国語（繁体字））	
クルーズ船受入促進事業	港湾課	189	国内外からの誘客を図るため、仙台塩釜港へのクルーズ船の誘致活動を行うとともに、寄港時の受入対応（おもてなし）を行う。	・新型コロナウイルスが収束化したことなどの影響により、外国クルーズ船の寄港数が過去最多タイの7隻となる延べ9隻（仙台港区8隻／石巻港区1隻）のクルーズ船が寄港し、寄港時のおもてなしを実施した。 また、石巻港大型客船誘致協議会などと連携し、クルーズ船社やオプションツアーを造成する旅行会社など3者に対し、共同ポートセールスを実施したほか、クルーズ船社の担当者による視察対応を実施し、クルーズ船の県内寄港に向けた取り組みを推進した。	

(2) 回復フェーズに応じた取組推進と観光資源の魅力の再発見

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
観光地域づくり チャレンジ事業	観光戦略課	6,734	みやぎ観光戦略プランに基づき、地方振興事務所と地域の事業者が一体となって、交流人口や関係人口の創出・拡大に向けた観光地域づくりを実施する。	・仙南地域のひな祭り開催施設と日帰り温泉施設等において、周遊企画としてスタンプラリーを実施 周遊スポット計 23 施設 ・仙台・松島地域における体験型コンテンツについて、SNS を活用した情報発信を実施 紹介スポット 24 箇所 ・石巻地域の橋梁に関する基本的データや特徴などの情報を記載した3種類の橋カードを各 2,000 枚作成し、観光関連施設及び主催イベント等において配布 ・登米地域における観光やグルメスポットについて、情報誌にて発信を実施し、「せんだいタウン情報 S-style」へ掲載 ・既存のガイドマップの内容更新や多言語翻訳を行い、鳴子温泉郷を軸とした賑わいの創出や情報発信を実施 ・栗原地域の地域資源を活用した観光コンテンツの造成・旅行商品の販売 観光コンテンツ造成・商品化 5 種類 ・気仙沼地域の農水産物を用いたベジタリアン向け及びハラルフードのメニューを開発 3 種類	
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課	85,739	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	・国内校向け教育旅行バス助成事業として、339 件、34,124,000 円を交付した。 ・国外校向け教育旅行バス助成事業として、13 件、965,000 円を交付した。 ・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(173 件、延べ5,991 名) ・首都圏中学校長を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。	
風評被害等観光客実態調査事業	観光戦略課	10,509	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	・県内主要観光地での観光客（外国人観光客含む）へのアンケート調査（県内 13 地点・四半期毎）及び全国の一般消費者を対象に WEB アンケート調査（6,500 票）にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。	○
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光戦略課	165,283	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	・荒廃した県内の登山道や遊歩道の整備（蔵王町、七ヶ宿町）などを行ったほか、広域観光案内板の盤面更新（蔵王町、川崎町）を行った。	
観光地の空間的 魅力創出事業	観光戦略課	29,266	ポストコロナの観光需要回復に向けた受入環境整備として、民間事業者が行う宿泊・観光施設等の改修等の改修等に係る取組を支援することにより、観光需要の拡大、収益・生産性向上等の実現を図り、地域・産業の「稼ぐ力」の回復・強化を図るもの。	観光庁補助事業「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化」事業の交付決定を受けた民間事業者を対象として、県から嵩上げ補助を行い、地域が一体となって受入環境整備を実施した。交付決定件数:18 施設（大崎市:12 施設、蔵王町内:6 施設）	
宮城ワーケーション情報環境整備推進事業	観光戦略課	1,379	宮城におけるワーケーションの一層の普及促進を図るため、県内のワーケーション施設等の情報を一元化したポータルサイトを構築し、効果的な情報発信を行う。	・令和4年度に開設した WEB サイト「Miwork 宮城」において、ワークスペース、宿泊施設及び観光施設等のワーケーション情報を一元化して発信することで、宮城のワーケーションの普及促進及び利用者の利便性向上に努めた。 - 掲載施設数：139 件 総ページビュー数：68,577 ビュー	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
観光事業者原油高騰対策支援事業	観光戦略課	8,400	コロナ禍の影響や原油等価格高騰の影響を受けている県内の遊覧船運営事業者及びスキー場運営事業者に対し、事業継続を支援する。	・県内の遊覧船運営事業者やスキー場運営事業者に対して、保有台数等に応じた支援金を交付した。（交付決定件数16件）	
小規模宿泊施設普及拡大事業	観光戦略課	12,720	外国人観光客をはじめとする多様な宿泊ニーズに対応するため、小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象にしたセミナーの開催や、小規模宿泊施設等の施設整備に係る経費を支援する。また、外国人が快適に観光を楽しめる環境整備のため、県内の宿泊施設や観光集客施設が行う公衆無線LAN機器設置や案内表示等の多言語化整備に対して支援を実施する。	・県内の小規模宿泊施設の新規開業者に対し、施設整備に係る経費の一部を補助した。（交付決定件数7件） ・県内の小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象としたセミナーを3回、現地見学会を2回開催した。 ・外国人観光客の利便性を図るため、県内の宿泊施設、観光集客施設等における公衆無線LANの整備、外国語表記の整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。（交付決定件数6件）	○
観光誘客推進事業	観光戦略課	80,091	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	・「みやぎ応援ポケモン」ラプラスを活用した事業のほか、みやぎのお酒を活用した「コト消費」ツアーの造成・プロモーション、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。 「ラプラス+宮城巡り ポケふたスタンプラリー」 エントリーユーザー数 3,967 人 「ラプラス+宮城巡り in 仙臺緑彩館」来場者 16,000 人	
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課	3,985	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	・県内まちづくり関係者とともに先進地視察を行ったほか、モデル地区の商店街団体に事業を委託し、賑わい創出イベントの実施や商店街を中心としたまちづくりの将来ビジョンを作成した。	
被災中小企業者対策資金利子補給事業補助	商工金融課	452,315	県制度融資「新型コロナウイルス感染症対応資金」の金利負担を軽減するため、利子補給を行う。	・県制度融資「新型コロナウイルス感染症対応資金」の金利負担を軽減するため、利子補給を行った。 利子補給対象融資件数 6,516 件 利子補給対象融資金額 119,644,564 千円 利子補給金額 443,326 千円	
中小企業等再起支援事業	中小企業支援室	94,838	物価高騰に伴う買い控えや燃料費・仕入価格上昇等の影響により業績が悪化し、経営の維持向上に支障をきたしている中小企業・小規模事業者が、早期の再起を図るために行う、販路開拓や生産性向上等の取組を支援する。	販路開拓、生産性向上等に取り組む中小企業・小規模事業者に対し、中小企業等再起支援事業補助金を交付し、事業者負担の軽減に関する支援を行った。 申請受付期間：1月17日～2月28日 支援件数：未定（4月末に決定予定） 支援額：500,000 千円（4月末に決定予定）	
みやぎ地域活性化雇用創造プロジェクト事業	雇用対策課	143,010	潜在的労働力の掘り起しから就職までのトータルかつきめ細かなサポート等、幅広い求職者の就職支援や企業の採用力向上の支援等を行う「みやぎシゴトサポートセンター」を、仙台地域を除く石巻、気仙沼、大崎、大河原の4か所に設置し、求人・求職側の双方から、多様な人材の活躍を促進することで、企業の競争力の源泉である人材確保を進め、富県宮城の実現を雇用政策面から支える。	・多様な人材の活躍を推進するため、就職支援拠点を設置し、各種支援を実施した結果3,810人の就職に繋がったほか、企業の採用力強化や業務改善に向けたコンサルティング支援を20社に対し実施し、実際の採用の増加につながった。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,232	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。 (1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR (2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等 (3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業 (4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。 ①食のブランド化事業 ・3 県（山形、福島）連携マルシェ（11/3）の実施（来場者数約 5,875 人） ・管内道の駅と連携したスイーツとみやぎ蔵王三十六景地域の逸品マルシェを年 3 回開催（4、5、10 月） ・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨 7 品目、推奨品目数 88 品目）、リーフレットやシール、POP による販売促進の実施 ・県庁広報展示室での展示と連動した、地域の逸品販売会の開催（12 月 16～18 日開催 売上約 115 万円） ②広域観光・食と物産情報の発信強化事業 ・仙南地域の魅力をタイムリーに発信する SNS の認知度向上のため、X（旧 Twitter）キャンペーンを 2 回、開催し、キャンペーン終了後のフォロワー数が X で約 1.6 万人に増加 ・管内のひなまつり情報を、「ひなの郷せんなん」として一体的に広報するポスター及びリーフレットの作成とともに、同時期に開催した「仙南冬のスタンプラリー」企画と連動した広報により、閑散期となる冬季の広域周遊につなげた。 ③みやぎ蔵王温泉郷振興事業 ・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を活用したインスタグラムフォローキャンペーンを 2 回開催し、フォロワー数が 1,682 人に伸びた。 ④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計 4 回開催	○
仙南アドベンチャーツーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	984	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーツーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信として、当所ウェブサイト「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」のページを作成 ・紙媒体「仙南アドベンチャーマップ」を 10,000 部作成し、仙台市内の子育て施設等を中心に 237 箇所に配布することで、仙南圏域が子育てに適した地域であるということをアピール ・「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」に誘導するためのウェブ広告 3 種を実施	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	1,016	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏) (2)独自企画 秋冬周遊企画 (3)「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業	・仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。 ①夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2024」(R6.7～9月)を実施。応募総数1,201通 ②大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業 ・R6.11.17 SennanCyclingDayでの参加者への補給食等の提供や観光PRの実施 ③みやぎ仙南応援大使第1号「新井ひとみ氏」を活用した当所事業のPR	○
SNS等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	— (非予算)	令和3年度に開設した公式Twitter、令和4年度に開設した公式Instagramをはじめ、ブログやFacebook等のSNSを最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。	・管内の魅力ある観光や食をタイムリーに発信するため、ウェブサイトやSNSにより情報発信を実施した。 令和6年度はX(旧Twitter)約590件、Instagramは434件、事務所ウェブサイト約50件、ブログは33件の記事を投稿した。	○
3県(宮城・山形・福島)連携広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	東北中央道の開通等により、南東北3県(宮城仙南・山形置賜・福島県北)の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力を多くの方に知ってもらい、3県の相互交流を促進するため、各地域のスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。	・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3県の計32店舗、25観光スポットを周遊して、各地域のスイーツ店を1店舗以上及び観光スポットを1か所以上訪問することで応募可能となる「至福のスイーツトリップスタンプラリー」を8月1日から11月30日まで開催した。 ・総参加者数1,649人、応募総数181件、総スタンプ取得数5,299件、応募には至らなかったが、総閲覧者数4,752件の閲覧があった。	○
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	990	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を超えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の講座を2回開催 あわせて、大河原産業高校企画ビジネス科2年生を対象に、連続講座6回と実務者との合同講座1回を開催した。 実務者向けステップアップセミナー：補助金申請に関するセミナー延べ44人参加 高校生向けセミナー：連続講座6回、合同講座1回 延べ307人参加	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙山交流連携促進事業	仙台地方振興事務所	503	文化面・交通面での結びつきが強い宮城県仙台地域及び山形県村山地域合同の特産品販売会等を支援するとともに、両地域の魅力を発信することで、両地域の相互交流をさらに深める。	①両地域間の周遊促進を目的とし、仙台・黒川地域、山形・北村山地域の計10市町村を対象とした「仙山交流 麵活スタンプラリー」を7月13日から3ヶ月間開催した。 参加者：1,910名 ②平成14年度から開催している仙山交流連携促進会議を10月16日に、道の駅寒河江「チェリーランドさがえ」（寒河江市）で実施した。「どんな分野の協力隊活動にも直結する『関係人口』のつくりかた～地域おこし協力隊&行政職員向けワークショップ～」が行われた。 ※事務局を山形県と宮城県で持ち回りしており、令和6年度は山形県が担当した。 会議参加者：仙台・村山管内市町村職員等52名 ③9月25日、26日に勾当台公園市民広場（仙台市）で、両地域の産物を一堂に集め、生産者自ら直接販売を行う、「仙山交流味祭 in せんだい」を開催した。（主催は民間団体。当所は広報等の側面的支援を実施。） 25日：18店舗出店 300名来場 26日：17店舗出店 500名来場	
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	2,402	仙台圏域が一体となった観光周遊戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	①テーマ性をもった周遊ラリー企画と ②食と観光を連携させた取り組みとして、管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット（70店舗）を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域 めっちゃ！うまいっちゃ！スタンプラリー」を実施した。 参加者：2,189名 ③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート（じゃらんリサーチセンター）、リトル台湾 in 東北、金蛇水神社より講師を招き、令和7年2月14日に研修会を開催した。 参加者：市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等48名	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台地域観光コンテンツ魅力発信事業	仙台地方振興事務所	1,320	(1)管内の地域資源を活かした魅力的な体験型コンテンツを SNS を通じて県内外に広く発信するもの。 (2)県ホームページに掲載している仙台湾内観光ガイドブック「#せんだい WOW!な旅」の広告 PR を行い、仙台・松島エリアへの誘客を図るもの。	(1)仙台・松島地域の旬なおすすめ観光スポットや飲食店等を、知名度が高いキャラクターを起用し、Instagram の共同投稿により情報発信を行った。また、SNS の閲覧数・認識性向上のため、SNS 広告を活用し効果的な広報を実施する。 ＜紹介スポット＞24 箇所 ＜Instagram 投稿内容＞リール投稿：6 本、フィード投稿：6 本 ＜Instagram 投稿閲覧数＞リール投稿再生回数：計 48,602 回、フィード投稿閲覧数：計 23,428 回 ＜Instagram 広告＞表示回数：42,315 回、クリック数 1,495 回 (2)Instagram に、仙台湾内観光ガイドブック「#せんだい WOW!な旅」のホームページに誘導する Web 広告を 3 月 12 日～26 日の期間で掲載。 ＜広告＞広告表示回数：203,738 回、クリック数 4,190 回	
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会事業	仙台地方振興事務所	261	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会の事務局として、関係市町村等と連携・協働しながら、圏域観光の推進を図る。	①管内市町村の特色 PR 事業として、9 月 21 日、22 日に仙台湾の杜水族館において、観光誘客キャラバン及び管内事業者等による特産品販売会を実施した。 参加市町村数 13 市町村 特産品販売会出店者数 10 市町から 12 店舗 ②部会員である JR 東日本東北本部が主催した「鉄道の日」イベントや四季島のお見送りへの参加。 ③地場産業振興協議会事業との連携 宮城黒川地域地場産業振興協議会が開催した物産展に観光 PR ブースを設置しパンフレットの配布等を行った。 ④Instagram を活用しモデルコースやテーマに沿った内容の観光・食の情報発信を市町村の枠を越えて共同投稿により行った。 配信記事数 13 件 平均リーチ数 1,820 件	
関係人口拡大プロモーション事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	1,496	若年層（大学生・専門学校生等）を対象として、地域の企業や団体と連携した「課題解決型合宿」やお手伝い型の体験イベントを実施する。	・若年層（～30 代）を対象とした関係人口拡大に向けた取組を実施した。 取組数 3 件、参加者計 23 名	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
観光と食の魅力発信支援事業	東部地方振興事務所	659	観光関係団体や商工団体、事業者等と連携し、地域の観光や食の魅力を隣接県の道の駅等において情報発信することにより、地域食材等の知名度向上や売上の増加、交流人口の拡大による観光消費額の増加を図る。	・地域の観光と食のPRを目的として、福島県国見町において、「石巻地域の物産と観光展 in あつかしの郷」を開催した。日数10日間、出店数延べ9店舗 ・地域の観光と食のPRを目的として、山形県米沢市において、「石巻地域の物産と観光展 in 上杉城史苑」を開催した。日数2日間、出店数延べ6店舗 ・石巻復興フード見本市や大型客船入港等のイベントと連携した観光PR、ホームページやSNS、ロビーショーケースにおけるイベントや特産品の情報を発信した。SNS(3媒体)投稿数 501件 ・「いいねっしりのまきフォトキャンペーン」を開催し、応募236件、フォロー→2,059人→2,184人(125人増)	
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会による情報発信事業	東部地方振興事務所・気仙沼地方振興事務所	744	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会の事務局として、関係市町や観光関係団体等と連携しながら観光資源の広報宣伝等を実施し、石巻・気仙沼地域への交流人口の拡大を図るとともに、観光を活かした地域振興を推進する。	・三陸地域の周遊促進を目的として「みやぎ三陸エリアドライブマップ」を作成し、道の駅や観光施設等に配布した。発行部数 3万部 ・地域の観光資源を県内旅行業者に直接訴求し、魅力的な旅行商品の造成に繋げるための商談会に参加し、三陸地域の観光PRを実施した。	
地域支援事業(地域振興型)	東部地方振興事務所	1,980	石巻圏域の多様な地域資源を活用した観光誘客を図るため、新しい観光コンテンツ等の発掘や磨き上げを図るためのモニターツアーを実施し、外部視点による石巻圏域の魅力の発見と、その魅力を観光資源として利活用することについて検証するとともに、モニターツアーにより石巻圏域の魅力を内外に情報発信することにより、交流人口の拡大と地域の活性化を目指すもの。	・石巻圏域における「みちのく潮風トレイル」と「寿司・海鮮」の認知度向上のため、体験モニターツアー(みちのく潮風トレイル、寿司・海鮮)を実施したものの。みちのく潮風トレイルツアー:15名参加 寿司・海鮮ツアー:14名参加	
誘客促進事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	794	公式SNS「ほっとめーしょん」のInstagramアカウントにおいて、登米市の魅力あるコンテンツを紹介してもらうフォトコンテストを実施するとともに、フォトコンテストの投稿写真を活用した、仙台駅構内のデジタルサイネージでの広告掲載、登米地域内の観光スポット及び飲食店等の情報を集約したデジタルマップの作成を行い、情報発信の強化を図る。	①登米地域の観光PR広告の掲出 R5年度開催したフォトコンテスト受賞作品を主に使用した観光PR広告を作成し、駅に掲出した。 仙台駅:掲出期間 R6.8.5～8.18 盛岡駅:掲出期間 R7.2.24～3.9 ②SNS、デジタルマップ等を活用した登米圏域のPR 当所の公式SNS「ほっとめーしょん」を活用し、登米圏域のPRを実施するとともに、事務所及び登米市で実施するイベントの周知を行う等、情報発信を行った。(投稿件数:76件) デジタル版「登米エリアドライブマップ」を作成し、運用開始した。 ③仙台・宮城観光キャンペーン及び岩手・宮城県際地域との連携による誘客促進 県北地域部会の公式Instagram「よしきたみやぎ」において、県北地域の魅力発信を行った。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
気仙沼地方振興事務所公式Instagramによる情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	32	公式Instagramを開設し、圏域の観光資源の魅力を効果的に情報発信する。	・圏域内観光資源の効果的な情報発信のため、公式Instagramを運営した。 投稿数 126件（総数750） フォロワー増加数 491（総数2,747）	○
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— （非予算）	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「宮城オルレフェア2024」のコースイベント（10/12）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともにイベント運営業務に従事し、プロモーション活動を支援した。	○
地域資源を活用したアウトドアアクティビティ観光推進事業	気仙沼地方振興事務所	1,499	トレイル初心者や交通手段の問題で躊躇していた層の新規顧客の開拓を図るとともに、リピーター確保に繋げるため、みちのく潮風トレイルの気仙沼・南三陸セクションを4コース程度の短い区間に分け、トレイルだけでなく、地域探索や地元民との交流などを盛り込んだ日帰りイベント（仙台発着バスツアー）を実施する。	気仙沼・南三陸圏域の観光資源である「みちのく潮風トレイル」と、観光やグルメなどの体験コンテンツを組み合わせた仙台発着の日帰りバスツアーを実施することで、その魅力を広く発信するため、ツアーを仙台発着のバスツアーを計4回開催した。（参加者：計60人） また、みちのく潮風トレイルや自然や文化を体験するアドベンチャーツーリズムなどのガイドを育成するための研修会を1回開催した。（参加者：計19人）	○
ガストロノミーツーリズム推進事業	気仙沼地方振興事務所	979	当圏域の気候風土が育んだ食をテーマとして、その習慣・伝統・歴史などを体験する観光コンテンツを造成し、インバウンドをはじめとする観光客の誘いに繋げるもの。	気仙沼・本吉圏域の農水産物を活用して、ベジタリアンやハラルフードを摂る人向けのメニューを開発するとともに、地元飲食店等へのレシピの共有、メニュー等の多言語化により、当圏域へのインバウンド観光客の誘致及びガストロノミーツーリズムの推進を支援した。 開発メニュー：4種類 メニュー発表会参加者：29人（観光関係者、飲食事業者等） 翻訳言語数：3（インドネシア語、英語、中国語（繁体字））	○
インターネット広報事業	広報課	3,943	ウェブサイト、Facebook、メールマガジン等の特性を活かし、県政ニュースや各種イベント、宮城の魅力、観光情報等を発信する。	・ウェブサイトは、県政ニュース等を掲載するニュースクリップを年間77件掲載した。また、トップページ上段の大バナー及びページ中段の事業PRバナーにおいて年間22件の県政情報を掲載した。 ・Facebookは、年間392件投稿し、フォロワー数は278人増の14,071人となった。 ・メルマガ・みやぎは、年間48回配信し、年度末の登録者数は6,008人であった。	
宮城県戦略的の魅力発信事業	広報課	22,466	県内外に向け、宮城の様々な魅力を総合・横断的に広報する。	・全国放送網のテレビを活用したパブリシティにより、宮城の様々な魅力を発信し、8企画の露出を獲得した。また、インスタグラムアカウント名をリニューアルし、プレゼントキャンペーンを実施することで、フォロワーを獲得し、若年層を中心に幅広い世代に訴求を図った。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
首都圏向け情報発信事業	東京事務所	— (非予算)	主に首都圏をターゲットに観光地などに関する情報を発信するとともに、首都圏開催の本県関連イベント等の情報を適宜発信する。	・首都圏開催の各種イベントやメディア向け記者会見、企業訪問等の場で、積極的に観光情報の発信を行った。また、東京事務所ホームページと各 SNS を活用し、宮城県内及び首都圏で開催される本県関連イベント等についてタイムリーに情報発信を行った。 Facebook 及び Instagram での情報発信 113 件	

回復戦略 合計 55事業 1,292,154千円

成長戦略 1 魅力あふれる観光地づくり

宮城県が誇る食・自然・歴史・文化等の観光資源の発掘・磨き上げを行ったほか、デジタル技術を活用した観光コンテンツの造成により、来訪意欲の増進に取り組んだ。

また、地域住民の郷土への誇りや愛着の意識向上に向け、教育分野と連携し、未来を担う子どもたちにふるさとに関する教育等の推進を図ったほか、東日本大震災の風化防止と震災の教訓を次世代へ伝承するため、積極的な情報発信を行った。

(1) 特色ある地域資源の発掘・磨き上げと観光コンテンツの充実

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
宮城県グリーン製品を活用した公園施設整備事業	観光戦略課	9,603	東北自然歩道「新・奥の細道」の案内看板等が老朽化したため、撤去を行うとともに引き続き必要な個所には新しい案内看板を設置する。	・塩竈市、七ヶ宿町の東北自然歩道における指導標識等の整備を行った。	
外国人観光客受入環境整備促進事業	観光戦略課	7,969	外国人が快適に観光を楽しめる環境整備のため、県内の宿泊施設や観光集客施設が行う公衆無線 LAN 機器設置や案内表示等の多言語化整備に対して支援を実施する。	・外国人観光客の満足度向上を図るため、デジタルサイネージの導入や多言語での施設紹介動画作成など、先進的な外国人観光客受入環境整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。(交付決定件数 4 件)	○
観光地域づくりチャレンジ事業	観光戦略課	6,734	みやぎ観光戦略プランに基づき、地方振興事務所と地域の事業者が一体となって、交流人口や関係人口の創出・拡大に向けた観光地域づくりを実施する。	・仙南地域のひな祭り開催施設と日帰り温泉施設等において、周遊企画としてスタンプラリーを実施 周遊スポット計 23 施設 ・仙台・松島地域における体験型コンテンツについて、SNS を活用した情報発信を実施 紹介スポット 24 箇所 ・石巻地域の橋梁に関する基本的データや特徴などの情報を記載した 3 種類の橋カードを各 2,000 枚作成し、観光関連施設及び主催イベント等において配布 ・登米地域における観光やグルメスポットについて、情報誌にて発信を実施し、「せんだいタウン情報 S-style」へ掲載 ・既存のガイドマップの内容更新や多言語翻訳を行い、鳴子温泉郷を軸とした賑わいの創出や情報発信を実施 ・栗原地域の地域資源を活用した観光コンテンツの造成・旅行商品の販売 観光コンテンツ造成・商品化 5 種類 ・気仙沼地域の農水産物を用いたベジタリアン向け及びハラルフードのメニューを開発 3 種類	○
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課	85,739	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	・国内校向け教育旅行バス助成事業として、339 件、34,124,000 円を交付した。 ・国外校向け教育旅行バス助成事業として、13 件、965,000 円を交付した。 ・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(173 件、延べ 5,991 名) ・首都圏中学校長を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
フィルムコミッション推進事業	観光戦略課	2,044	映画、テレビを通じて当県の魅力を内外に広く発信し、当県の知名度向上と観光集客力の強化を推進するため、「せんだい宮城フィルムコミッション」に参画して、映画、テレビ等の撮影のロケーションの誘致、支援等を行う。	・「せんだい・宮城フィルムコミッション」の所属団体として、映画、テレビ番組、コマーシャル等のロケーション撮影の支援及び誘致の取組に対して支援した。「せんだい・宮城フィルムコミッション」における支援件数194件、撮影実績45件	
風評被害等観光客実態調査事業	観光戦略課	10,509	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	・県内主要観光地での観光客（外国人観光客含む）へのアンケート調査（県内13地点・四半期毎）及び全国の一般消費者を対象にWEBアンケート調査（6,500票）にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。	○
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光戦略課	165,283	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	・荒廃した県内の登山道や遊歩道の整備（蔵王町、七ヶ宿町）などを行ったほか、広域観光案内板の盤面更新（蔵王町、川崎町）を行った。	○
観光地の空間的的魅力創出事業	観光戦略課	29,266	ポストコロナの観光需要回復に向けた受入環境整備として、民間事業者が行う宿泊・観光施設等の改修等の改修等に係る取組を支援することにより、観光需要の拡大、収益・生産性向上等の実現を図り、地域・産業の「稼ぐ力」の回復・強化を図るもの。	観光庁補助事業「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化」事業の交付決定を受けた民間事業者を対象として、県から嵩上げ補助を行い、地域が一体となって受入環境整備を実施した。交付決定件数:18施設（大崎市内:12施設、蔵王町内:6施設）	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課	2,660	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計32回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。	
観光誘客推進事業	観光戦略課	80,091	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	・「みやぎ応援ポケモン」ラプラスを活用した事業のほか、みやぎのお酒を活用した「コト消費」ツアーの造成・プロモーション、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。 「ラプラス+宮城巡り ポケふたスタンプラリー」 エントリーユーザー数3,967人 「ラプラス+宮城巡り in 仙臺緑彩館」来場者 16,000人	○
みやぎ観光デジタルプロモーション事業	観光戦略課	24,736	インバウンド回復のため、デジタルを活用し、旅行者の需要に合わせたプロモーションを実施するとともに、その結果を踏まえたインバウンド施策展開に繋げる。	・東北観光DMP活用・分析業務 効果的な観光施策の立案等のため、東北観光推進機構が保有するデータ集積基盤である「東北観光DMP」を活用し、広域での観光動向分析等を実施した。 ・みやぎ観光デジタルプロモーション事業 外国人誘客促進のため、インバウンド向け多言語ホームページ「Visit Miyagi」の運営・管理を実施（R6年度：約33万PV）するなど、デジタルを活用した本県の魅力発信を行った。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
外国人観光客誘致促進事業	観光戦略課	46,192	外国人観光客の誘客回復のため、トップセールスや旅行博出展等を実施するほか、台湾、中国のサポートデスクを活用し、セールスコールや招請事業等を一体的に行う。 併せて、SNSによる情報発信を各市場に対し一元的に実施する。	・外国人観光客誘客事業 仙台市との共同で大台南国際旅行博（R6.11.15～11.18）に出展し、入場者数は約14万人となった。 ・現地誘客促進事業 台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、更なる誘客促進を図った。 ・誘客促進情報発信事業 本県が管理する海外向け公式SNSを一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は546本。合計フォロワー数は約30万人となった。	○
宮城オルレ推進事業	観光戦略課	40,032	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	・国内観光向けには「宮城オルレフェア2024（R6.9.14～10.19）」を開催し、500人以上が参加した（平成30年10月の宮城オルレオープン以降の延べ利用者数：約7.7万人）。また、新たな宮城オルレオリジナルグッズの販売を開始した。 ・新規コース開設を目指す市町を支援し、蔵王・遠刈田温泉コース及び多賀城コースが、済州オルレから条件付きで認定を得た。 ・インバウンド向けには、済州オルレウォーキングフェスティバルに本県ブースを出展し、パンフレットを配布するなど宮城オルレのPRを行った。また、韓国のトレッキング商品を扱う旅行会社6社を県単独で招請し、宮城オルレを組み込んだツアー商品の造成につなげた。	○
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光戦略課	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	・国内観光向けには、InstagramフォトコンテストやJAXA角田宇宙センターでの合同ブース出展等を行った。 ・海外観光向けには、WEBメディアを活用した情報発信を行った。	○
国際観光モデル地区観光施設整備事業	観光戦略課	2,263	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北3県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	・タイから栃木及び南東北への誘客に向けたプロモーション事業 ＜タイ旅行博出展事業＞ 現地旅行博にブース出展し一般来場者向けにPRしたほか、現地旅行会社を対象とした商談会を実施した。 ブース来場者数 18,786人 ＜タイ旅行会社招請事業＞ 高付加価値の団体ツアーを中心に造成しているタイ現地旅行会社4社を招請し、各県の冬の魅力と食文化を訴求した。造成ツアー9本 造成ツアー送客数 220人	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化	観光戦略課	18,500	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北各県や東北観光推進機構等と連携し、東北が一体となった観光プロモーションの展開などの取組を行う。	・東北観光推進機構において、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ東北・新潟域内の観光需要の早期回復を目的に、関係団体と連携したプロモーション等を実施した。 東北の新しい旅行スタイル創出プロジェクト「Base!TOHOKU」の実施 台湾で東北PRイベント「日本東北遊楽日」を実施	
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課	3,985	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	・県内まちづくり関係者とともに先進地視察を行ったほか、モデル地区の商店街団体に事業を委託し、賑わい創出イベントの実施や商店街を中心としたまちづくりの将来ビジョンを作成した。	○
宮城マスター検定事業	富県宮城推進室	827	ご当地検定の形式を用いて、宮城の特産品、観光地、イベント等産業関係の情報を中心に広く県内外にPRすることにより、宮城県の地域資源、産業全般に関する認知度を高めるとともに、地域産業の活性化を図る。	・本県の魅力を県内外に発信するため、宮城マスター検定1級試験を実施し、279人が受験したほか、出前講座を1回開催し、68人が参加した。	
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,232	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。 (1)食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR (2)広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNSキャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等 (3)みやぎ蔵王温泉郷振興事業 (4)みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。 ①食のブランド化事業 ・3県（山形、福島）連携マルシェ（11/3）の実施（来場者数約5,875人） ・管内道の駅と連携したスイーツとみやぎ蔵王三十六景地域の逸品マルシェを年3回開催（4、5、10月） ・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨7品目、推奨品目数88品目）、リーフレットやシール、POPによる販売促進の実施 ・県庁広報展示室での展示と連動した、地域の逸品販売会の開催（12月16～18日開催 売上約115万円） ②広域観光・食と物産情報の発信強化事業 ・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、開催し、キャンペーン終了後のフォロワー数がXで約1.6万人に増加 ・管内のひなまつり情報を、「ひなの郷せんなん」として一体的に広報するポスター及びリーフレットの作成とともに、同時期に開催した「仙南冬のスタンプラリー」企画と連動した広報により、閑散期となる冬季の広域周遊につなげた。 ③みやぎ蔵王温泉郷振興事業 ・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を活用したInstagramフォローキャンペーンを2回開催し、フォロワー数が1,682人に伸びた。 ④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計4回開催	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙南アドベンチャーツーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	984	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーツーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信として、当所ウェブサイト「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」のページを作成 ・紙媒体「仙南アドベンチャーマップ」を10,000部作成し、仙台市内の子育て施設等を中心に237箇所に配布することで、仙南圏域が子育てに適した地域であるということをアピール ・「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」に誘導するためのウェブ広告3種を実施	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	1,016	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1) 特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏) (2) 独自企画 秋冬周遊企画 (3) 「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業	・仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。 ①夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2024」(R6.7～9月)を実施。応募総数1,201通 ②大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業 ・R6.11.17 SennanCyclingDayでの参加者への補給食等の提供や観光PRの実施 ③みやぎ仙南応援大使第1号「新井ひとみ氏」を活用した当所事業のPR	○
SNS等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	— (非予算)	令和3年度に開設した公式Twitter、令和4年度に開設した公式Instagramをはじめ、ブログやFacebook等のSNSを最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。	・管内の魅力ある観光や食をタイムリーに発信するため、ウェブサイトやSNSにより情報発信を実施した。 - 令和6年度はX(旧Twitter)約590件、Instagramは434件、事務所ウェブサイト約50件、ブログは33件の記事を投稿した。	○
3県(宮城・山形・福島)連携広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	東北中央道の開通等により、南東北3県(宮城仙南・山形置賜・福島県北)の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力を多くの方に知ってもらい、3県の相互交流を促進するため、各地域のスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。	・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3県の計32店舗、25観光スポットを周遊して、各地域のスイーツ店を1店舗以上及び観光スポットを1か所以上訪問することで応募可能となる「至福のスイーツトリップスタンプラリー」を8月1日から11月30日まで開催した。 ・総参加者数1,649人、応募総数181件、総スタンプ取得数5,299件、応募には至らなかったが、総閲覧者数4,752件の閲覧があった。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	990	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を超えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の講座を2回開催 あわせて、大河原産業高校企画ビジネス科2年生を対象に、連続講座6回と実務者との合同講座1回を開催した。 実務者向けステップアップセミナー：補助金申請に関するセミナー延べ44人参加 高校生向けセミナー：連続講座6回、合同講座1回 延べ307人参加	○
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	2,402	仙台圏域が一体となった観光周遊戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	①テーマ性をもった周遊ラリー企画と ②食と観光を連携させた取り組みとして、管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット（70店舗）を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域 めっちゃ！うまいっちゃ！スタンプラリー」を実施した。 参加者：2,189名 ③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート（じゃらんリサーチセンター）、リトル台湾 in 東北、金蛇水神社より講師を招き、令和7年2月14日に研修会を開催した。 参加者：市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等48名	○
仙台地域観光コンテンツ魅力発信事業	仙台地方振興事務所	1,320	(1)管内の地域資源を活かした魅力的な体験型コンテンツをSNSを通じて県内外に広く発信するもの。 (2)県ホームページに掲載している仙台南観光ガイドブック「#せんだいWOW!な旅」の広告PRを行い、仙台・松島エリアへの誘客を図るもの。	(1)仙台・松島地域の旬なおすすめ観光スポットや飲食店等を、知名度が高いキャラクターを起用し、Instagramの共同投稿により情報発信を行った。また、SNSの閲覧数・認識性向上のため、SNS広告を活用し効果的な広報を実施する。 ＜紹介スポット＞24箇所 ＜Instagram投稿内容＞リール投稿：6本、フィード投稿：6本 ＜Instagram投稿閲覧数＞リール投稿再生回数：計48,602回、フィード投稿閲覧数：計23,428回 ＜Instagram広告＞表示回数：42,315回、クリック数1,495回 (2)Instagramに、仙台南観光ガイドブック「#せんだいWOW!な旅」のホームページに誘導するWeb広告を3月12日～26日の期間で掲載。 ＜広告＞広告表示回数：203,738回、クリック数4,190回	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会事業	仙台地方振興事務所	261	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会の事務局として、関係市町村等と連携・協働しながら、圏域観光の推進を図る。	①管内市町村の特色PR事業として、9月21日、22日に仙台うみの杜水族館において、観光誘客キャラバン及び管内事業者等による特産品販売会を実施した。 参加市町村数 13市町村 特産品販売会出店者数 10市町から12店舗 ②部会員であるJR東日本東北本部が主催した「鉄道の日」イベントや四季島のお見送りへの参加。 ③地場産業振興協議会事業との連携 宮城黒川地域地場産業振興協議会が開催した物産展に観光PRブースを設置しパンフレットの配布等を行った。 ④Instagramを活用しモデルコースやテーマに沿った内容の観光・食の情報発信を市町村の枠を越えて共同投稿により行った。 配信記事数 13件 平均リーチ数 1,820件	○
宮城オルレ「大崎・鳴子温泉コース」の誘客促進事業	北部地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「大崎・鳴子温泉コース」への誘客促進を図るため、県や大崎市、宮城県観光連盟等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「大崎・鳴子温泉コース」に韓国及び台湾からツアーが来訪した際に、同行した。 ・宮城オルレの新コース審査のため済州オルレを招へいた際に「大崎・鳴子温泉コース」にも来訪したため、同行した。 ・鳴子宮城オルレフェア2024大崎・鳴子温泉コース5周年イベントのスタッフとしてイベントの開催・運営を支援する予定だったが、悪天候により開催中止となった。	
岩手・宮城県際広域観光推進研究会による情報発信事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所・東部地方振興事務所登米地域事務所・気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	岩手県と宮城県の県際地域における広域観光の推進を図るため、「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」に参画し、観光案内所等におけるパンフレットの相互配架、広域パンフレットの作成等を行う。	・意見交換や現地視察等を行う研究会を2回開催した。 ・当該地域の観光地情報等を協力して発信した。	
くりはらマルシェ開催事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	101	栗原地域の物産品のPR販売と合わせて観光PRを実施し、栗原地域への誘客促進を図る。	・くりはらマルシェ県庁ロビー(2日間、6事業者)、栗原苔フェスティバル2024deくりはらマルシェ(1日間、12事業者)、「くりはらマルシェ」in石巻合同庁舎(初開催)(1日間、6事業者)において、くりはらマルシェを開催し、商品PRと販路拡大を図った。	
シビックプライド醸成セミナー開催事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	89	栗原管内の観光関連産業従事者等を対象として、地元の魅力を再確認するセミナーを開催する。	・花の百名山でもある栗駒の魅力を県内外の観光客に向けて発信することをテーマにしたセミナーを3回(延べ37名)を開催した。	
関係人口拡大プロモーション事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	1,496	若年層(大学生・専門学校生等)を対象として、地域の企業や団体と連携した「課題解決型合宿」やお手伝い型の体験イベントを実施する。	・若年層(～30代)を対象とした関係人口拡大に向けた取組を実施した。 取組数3件、参加者計23名	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
体験・宿泊型観光推進事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	700	体験や宿泊を伴う滞在型観光を推進するため、農泊・民泊等開業志向者の掘り起こしにつながるイベントの開催や、開業・経営の伴走型支援を行う。	・農泊、民泊等開業志向者の掘り起こしのためのイベント等の開催 1回 参加者5名 ・農泊、民泊等開業志向者への伴走支援や開業後の経営に関する助言 開業サポート及び相談対応 7件 ・既存農泊、民泊事業者の経営への助言や販路拡大等に必要な支援に関する情報提供 相談及び事業拡大サポート 4件 ・既存事業者によるネットワーク会議の開催 2回 参加者21名	
栗駒山麓広域連携事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	— (非予算)	栗駒山を共通の観光資源とする岩手県、秋田県と連携し、栗駒山麓の登山マップや広域観光パンフレットの作成、配架等を行う。	・栗駒山トレッキング MAP や、各県事務所のイベントに関するポスター・パンフレットを相互に配架した。	
観光と食の魅力発信支援事業	東部地方振興事務所	659	観光関係団体や商工団体、事業者等と連携し、地域の観光や食の魅力を隣接県の道の駅等において情報発信することにより、地域食材等の知名度向上や売上の増加、交流人口の拡大による観光消費額の増加を図る。	・地域の観光と食の PR を目的として、福島県国見町において、「石巻地域の物産と観光展 in あつかしの郷」を開催した。 日数 10 日間、出店数 延べ9 店舗 ・地域の観光と食の PR を目的として、山形県米沢市において、「石巻地域の物産と観光展 in 上杉城史苑」を開催した。 日数 2 日間、出店数 延べ6 店舗 ・石巻復興フード見本市や大型客船入港等のイベントと連携した観光 PR、ホームページや SNS、ロビーショーケースにおけるイベントや特産品の情報を発信した。 SNS (3 媒体) 投稿数 501 件 ・「いいねっ! しのまきフォトキャンペーン」を開催し、応募 236 件、フォロワー2,059 人→2,184 人 (125 人増))	○
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会による情報発信事業	東部地方振興事務所・気仙沼地方振興事務所	744	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会の事務局として、関係市町や観光関係団体等と連携しながら観光資源の広報宣伝等を実施し、石巻・気仙沼地域への交流人口の拡大を図るとともに、観光を活かした地域振興を推進する。	・三陸地域の周遊促進を目的として「みやぎ三陸エリアドライブマップ」を作成し、道の駅や観光施設等に配布した。 発行部数 3 万部 ・地域の観光資源を県内旅行業者に直接訴求し、魅力的な旅行商品の造成に繋げるための商談会に参加し、三陸地域の観光 PR を実施した。	○
地域支援事業 (地域振興型)	東部地方振興事務所	1,980	石巻圏域の多様な地域資源を活用した観光誘客を図るため、新しい観光コンテンツ等の発掘や磨き上げを図るためのモニターツアーを実施し、外部視点による石巻圏域の魅力の発見と、その魅力を観光資源として利活用することについて検証するとともに、モニターツアーにより石巻圏域の魅力を内外に情報発信することにより、交流人口の拡大と地域の活性化を目指すもの。	・石巻圏域における「みちのく潮風トレイル」と「寿司・海鮮」の認知度向上のため、体験モニターツアー（みちのく潮風トレイル、寿司・海鮮）を実施したもの。 みちのく潮風トレイルツアー: 15 名参加 寿司・海鮮ツアー: 14 名参加	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
地元定着意識醸成事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	797	登米市内の中高校生を対象に、登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史に触れる機会を作るほか、登米地域の魅力を発信できる人材を育成することで、若者の地元定着意識の醸成を図る。	「みやぎの明治村歴史探訪」の開催 (R6.10.5、10.6、11.3、11.17) 登米市内の中高校生や小学生親子を対象に、観光ガイドから登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史について学ぶことができるイベントを開催した。(計4回開催、参加者48名)	
体験型観光コンテンツ掘り起こし・磨き上げ事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	87	登米市内外の小学生を対象に、登米の魅力に触れることができるクラフトツーリズム体験及びグリーンツーリズム体験をテーマとした体験会を開催するとともに、登米地域内の農泊施設について、近隣地域と連携し、継続的にフォローアップ支援を行うことにより、体験型観光コンテンツの掘り起こし及び磨き上げを図る。	①登米の魅力体験会の開催 ・小学生の親子を対象に登米市の魅力を発見してもらうことや体験コンテンツの磨き上げを目的とした「小学生の親子対象 登米の魅力体験会」を開催した。 開催日・参加者数：グリーンツーリズム編 R6.10.21・14名、クラフトツーリズム編 R6.11.16・17名 ②登米の農泊等の運営フォローアップ支援 ・登米地域内の農泊施設へのヒアリングを実施。 ・グリーンツーリズム体験提供者を対象とした「グリーン・ツーリズム安全管理研修会」を東部地方振興事務所農業振興部と共催した。 開催日：R7.2.13	○
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「宮城オルレフェア 2024」のコースイベント(10/12)開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともにイベント運営業務に従事し、プロモーション活動を支援した。	○
地域資源を活用したアウトドアアクティビティ観光推進事業	気仙沼地方振興事務所	1,499	トレイル初心者や交通手段の問題で躊躇していた層の新規顧客の開拓を図るとともに、リピーター確保に繋げるため、みちのく潮風トレイルの気仙沼・南三陸セクションを4コース程度の短い区間に分け、トレイルだけでなく、地域探索や地元民との交流などを盛り込んだ日帰りイベント(仙台発着バスツアー)を実施する。	気仙沼・南三陸圏域の観光資源である「みちのく潮風トレイル」と、観光やグルメなどの体験コンテンツを組み合わせた仙台発着の日帰りバスツアーを実施することで、その魅力を広く発信するため、ツアーを仙台発着のバスツアーを計4回開催した。(参加者：計60人) また、みちのく潮風トレイルや自然や文化を体験するアドベンチャーツーリズムなどのガイドを育成するための研修会を1回開催した。(参加者：計19人)	○
ガストロノミーツーリズム推進事業	気仙沼地方振興事務所	979	当圏域の気候風土が育んだ食をテーマとして、その習慣・伝統・歴史などを体験する観光コンテンツを造成し、インバウンドをはじめとする観光客の誘いに繋げるもの。	気仙沼・本吉圏域の農水産物を活用して、ベジタリアンやハラルフードを摂る人向けのメニューを開発するとともに、地元飲食店等へのレシピの共有、メニュー等の多言語化により、当圏域へのインバウンド観光客の誘致及びガストロノミーツーリズムの推進を支援した。 開発メニュー：4種類 メニュー発表会参加者：29人(観光関係者、飲食事業者等) 翻訳言語数：3(インドネシア語、英語、中国語(繁体字))	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
湿地環境保全・利活用事業	自然保護課	45,630	多種多様な生物が生息する淡水湖沼の生態系を有していた伊豆沼・内沼への再生を目指し、沈水植物や在来生物を増加させるための自然再生事業を実施するとともに、ワイズユースの推進及び普及啓発のため、ラムサール条約湿地の魅力を発信し、自然との触れ合いによる環境教育の場の整備を図る。	・地元関係者や専門家で構成される伊豆沼・内沼自然再生協会との連携を図りながら、外来種駆除や在来生物の増殖事業等の自然再生事業を実施した。また、湿地の魅力を発信するため、水生植物園内に水生植物の解説看板（3基）及び誘導看板（2基）を設置、観察水路の拡張や足場の整備等を実施。	
蔵王芝草平保全対策事業	自然保護課	47,213	キンコウカ、イワショウブなど高山植物の宝庫となっている蔵王国定公園の芝草平は、植生の破壊が進んだことから平成18年度に木道を設置、公園利用者の無秩序な立入を防止し、植生の保護を図っている。 この木道が経年劣化により利用者に危険を及ぼす恐れがあることから、老朽化対策として木道の更新を行う。	・木道等の更新工事の実施 木道（L=0.05km）、休憩所工（3箇所）、看板工（撤去：1基）	
「東北文化の日」推進事業	消費生活・文化課	1,171	東北全体の文化力の発揮を目指すとともに文化施設を基点として圏域内外の交流人口の拡大を図るため、東北6県及び仙台市が一体となり東北圏域の特色ある文化資源の情報を総合的に発信する。	・東北6県及び仙台市が中心となり、ガイドブックやポスター、HPを通じて、東北県内の市町村及び文化施設等のイベント広報を行った。 「東北文化の日」令和6年10月26日（土）、27日（日） 関連イベント開催期間 令和6年10月26日（土）から11月24日（日）まで 施設数 229 施設 イベント数 268 イベント 総参加者数 877,653 人	
首都圏県産品販売等拠点運営事業	食産業振興課・東京事務所	174,886	県産品の紹介・販路拡大及び観光案内・宣伝のため、首都圏アンテナショップの運営管理を行う。	・首都圏アンテナショップはR6.12に閉店したが、11月までの売上は約3.4億円となり、前年同期を上回ったほか、テレビ、雑誌等の各種メディアによる広報等に努めた結果、県産品の販路・消費の拡大に貢献した。	
物産展等開催事業	食産業振興課	8,430	県外主要都市の百貨店で物産展を開催し、県産品の販売及び観光情報の発信を行う。	・5都市（池袋、千葉、横浜、名古屋、広島）の百貨店で物産展を開催し、3.1億円の売上となった。	
地域イメージ確立推進事業	食産業振興課	1,275	多彩で豊富な「食」を創出する県という地域イメージの確立のため、知事等によるトップセールスやSNSを活用した宮城の食材に関する情報発信を行う。	・「食材王国みやぎ」の地域イメージ確立のため、首都圏の大型小売店においてトップセールスによるPRを1回実施した。 ・「食材王国みやぎ」公式SNS（Facebook及びInstagram）等で情報発信を行うとともに、県産品のプレゼント企画を3回実施した結果、Instagramのフォロワー数が約6,900人となった。	
県産ブランド品確立支援事業	食産業振興課	5,429	県産食材の高付加価値化及び販売力の強化のため、品質の良さに加え、消費者・実需者の共感・感動を生むストーリーを持つ県産ブランド品の確立を図る。	・県外及び県内飲食店等実需者や流通関係者を県内生産現場に実需者を招へいする「みやぎ食材出合いの旅」を5回実施し、ホテル・飲食店等での「食材王国みやぎフェア」（計8店舗、延べ421日）の開催を支援した。 また、「せり」のブランド化推進、消費拡大を図るため、県内飲食店において「みやぎ春せりフェア（22店舗）」を1か月開催した。 ・流通関係者・実需者向けのプロモーションとして、県産食材の産地視察会（計12人参加）と複数品目を組み合わせた「食べ方お披露目会」（17人）を実施した。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
食育・地産地消推進事業	食産業振興課	4,776	食育、地産地消を通じた県産農林水産物の販路拡大のため、地産地消推進店と連携した県産農林水産物のPR、高校生を対象とした「お弁当コンテスト」、小・中学生を対象とした「伝え人派遣事業」による食育を推進する。	・高校生地産地消お弁当コンテストを開催（応募件数 19 校 93 作品）し、入賞した 4 作品が協賛企業とのコラボレーション商品として一般販売された。 ・食材王国みやぎ伝え人を小・中学校等へ 41 回派遣した。	
みやぎの食材バリューチェーン構築プロジェクト	食産業振興課	20,571	今後、県内で生産拡大が見込まれている農産物に対して、一次加工や事業者間による対応を促進するとともに、マーケティングに基づいた商品開発から食材王国みやぎのブランドイメージの浸透を踏まえた販路開拓の支援まで、食産業の各段階における付加価値を高めることにより、食のバリューチェーンを構築する。	・付加価値の高い商品づくりを支援するため、10 者に対し商品開発経費の一部を補助した結果、各事業者が新商品を開発することができた。そのうち 5 者については、未利用資源を活用するなど環境に配慮した商品開発に繋がった。 ・また、商談機会を創出するため、山形県等と連携して展示商談会を実施し、県内食品製造業者等 49 者が県内外のバイヤーと商談を行ったほか、首都圏の大規模商談会に宮城県ブースを出展し、県内事業者 20 者が自社製品を広く PR するとともに商談を行った。	
県産品デジタルマーケティング展開支援事業	食産業振興課	75,304	試食等のリアルのツールも活かしながら、EC による販売拡大やデジタルデータを活用したマーケティングノウハウの習得を支援する。	・県産品の魅力と県産品販売事業者のオンラインショップを紹介するアンテナサイト「宮城旬鮮探訪」及び楽天市場内県産品特集ページ「宮城県 WEB 物産展」を管理運営し、そこで得られたデータを EC 情報交換会において県内事業者へフィードバックした。 ・オンラインとオフラインの双方のメリットを生かした OMO 方式による物産展等の開催により、EC サイトへの送客支援のほか、試飲試食によって得られた商品に対する消費者の意見・感想等を参加事業者へフィードバックした。	
むらまち交流拡大推進事業	農山漁村なりわい課	3,268	農山漁村と都市の交流活動を推進するため、地域の受入体制づくりと交流活動に向けた広報や情報発信を行う。また、広域ネットワーク組織を設置し、地域間の連携を強化する。	・農泊地域のニーズに合わせたテーマ別研修会・交流会開催（2 回） ・みやぎの農泊サイトのリニューアルによる情報発信の強化 ・農山漁村交流アドバイザー派遣の実施（3 回） ・農泊実践者向けの圏域研修会の開催（1 回）	
地域資源・キャリア人材フル活用事業	農山漁村なりわい課	— (非予算)	農山漁村地域において、農泊等の受入体制づくりや都市と地域の交流に向けたコーディネーター人材の育成を支援する。	・みやぎの INAKA 応援し隊による地域活動実施	
シン・令和のむらづくり推進事業（しごと・くらし体験）	農山漁村なりわい課	6,414	農山漁村地域に多様な形で関わる関係人口の創出・拡大を図るため、県内外の社会人や学生を対象とした各種プログラムを通じ、「新たな地域滞在型交流」を促進する。	・地域滞在型交流プログラムの作成支援（3 地域）	
マツ林景観保全事業	森林整備課	23,403	松くい虫等による被害からマツ林の景観を保全するため、抵抗性マツの植栽や予防対策を実施するとともに、新たな技術を取り入れた景観保全対策を実施する。	種子配合物投下：320 袋 植栽：0.68ha 被害材搬出利用 175.42 m ³ 樹幹注入 1,237 本	
みやぎの景観形成事業	都市計画課	270	景観形成に係る普及啓発及び市町村の景観計画策定の支援を行う。	・景観資源を生かしたまちづくりへの意識形成を行うため、国と共同で景観行政セミナー（参加市町村：8 市町、参加人数：19 人）を実施した。 ・景観行政に精力的に取り組んでいる仙台市において景観先進地視察・意見交換（参加市町村：11 市町、参加人数：13 人）を行い、自治体職員の景観形成に係る普及啓発を行った。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台港周辺地域における賑わい創出事業	公営事業課	— (非予算)	仙台港周辺地域に立地する企業を中心に設立された官民連携組織である「仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム」を推進母体として、仙台港周辺地域のポテンシャルを活かした観光資源の磨き上げを図る。	・ウォーキングを通じ、仙台港周辺地域の自然や、商業・工業地域などの景色を楽しみながら歩いてもらうことで地域の魅力を発見してもらうことを目的に「みなとオアシス仙台港ウォーク」を実施した。(151名の参加) ・なお、取組は仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム会員企業の年会費を事業費として実施している。	
多賀城創建1300年記念総合整備活用事業	文化財課	21,885	多賀城創建1300年となる令和6年の公開を目指し、多賀城の中軸部である政庁跡から南門に至る地域を集中整備し、観光資源として磨き上げる。	・令和5年度から施工していた復元工事が完了し、政庁南面地区の整備工事が完成した。 - 解説板の設置 - 便益施設（ベンチ等）の設置 - 張芝 ・政庁南面地区整備事業報告書を刊行した	
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	2,977	日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。	・紹介パネル展8回 ・小中学生向けイベント4回、参加173人 ・講座・出前授業等の対応14件（参加者685名） ・公式SNSによる情報発信（Facebook・Instagram 合計フォロワー1,086人） ・文化財アクリルスタンド販売730個 ・特別名勝松島ハンドブック販売24冊 ・文化財カード配布による周遊促進（文化財の観覧、文化財関連イベント参加で配布約700枚） ・日本遺産ガイド養成講座 2回、参加45人 ・松島ガイドプログラム「景観と信仰」1回、参加9人 ・松島五大堂の説明板改修による周遊促進 ・東北歴史博物館に日本遺産ガイドンスコーナーの設置	
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	4,830	持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。	・多賀城跡に関わる講演会及び歴史講座等を開催した。 - 参加人数：講演会233人、講座213人（2回計） ・VRミュージアムのコンテンツを拡充し、特別展「多賀城1300年」及び教育普及事業「冬の体験イベント」での体験会を実施した（延べ利用人数197人）。 ・体験学習ゾーン「こども歴史館」において、常設のVRミュージアム体験ブースを設置・運用した（設置後のこども歴史館の利用人数5,290人）。	

(2) 観光に対する地域住民や旅行者の意識醸成

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課	85,739	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	・国内校向け教育旅行バス助成事業として、339件、34,124,000円を交付した。 ・国外校向け教育旅行バス助成事業として、13件、965,000円を交付した。 ・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(173件、延べ5,991名) ・首都圏中学校長を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。	○
フィルムコミッション推進事業	観光戦略課	2,044	映画、テレビを通じて当県の魅力を内外に広く発信し、当県の知名度向上と観光集客力の強化を推進するため、「せんだい宮城フィルムコミッション」に参画して、映画、テレビ等の撮影のロケーションの誘致、支援等を行う。	・「せんだい・宮城フィルムコミッション」の所属団体として、映画、テレビ番組、コマーシャル等のロケーション撮影の支援及び誘致の取組に対して支援した。「せんだい・宮城フィルムコミッション」における支援件数194件、撮影実績45件	○
観光地の空間的 魅力創出事業	観光戦略課	29,266	ポストコロナの観光需要回復に向けた受入環境整備として、民間事業者が行う宿泊・観光施設等の改修等の改修に係る取組を支援することにより、観光需要の拡大、収益・生産性向上等の実現を図り、地域・産業の「稼ぐ力」の回復・強化を図るもの。	観光庁補助事業「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化」事業の交付決定を受けた民間事業者を対象として、県から高上げ補助を行い、地域が一体となって受入環境整備を実施した。交付決定件数:18施設(大崎市内:12施設、蔵王町内:6施設)	○
みやぎ観光振興 会議運営事業	観光戦略課	2,660	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計32回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。	○
観光誘客推進事業	観光戦略課	80,091	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	・「みやぎ応援ポケモン」ラプラスを活用した事業のほか、みやぎのお酒を活用した「コト消費」ツアーの造成・プロモーション、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。 「ラプラス+宮城巡り ポケふたスタンプラリー」 エントリーユーザー数3,967人 「ラプラス+宮城巡り in 仙臺緑彩館」来場者 16,000人	○
仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	観光戦略課	12,307	仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用した本県観光のPR活動を実施し、県内への誘客を図る。	・発地側でのイベント等における本県の観光キャンペーンの告知及び本県観光情報のPR活動、着地側でのツアー観光客のお出迎え、県内の観光素材発掘、動画撮影、SNSを利用したむすび丸によるPR動画の配信等を実施した。 むすび丸による観光PR、おもてなし120回 メディア出演等4本 宮城県公式SNS運営 Instagram投稿数233(フォロワー数約7400人増)	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
宮城オルレ推進事業	観光戦略課	40,032	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	・国内観光に向けには「宮城オルレフェア 2024(R6.9.14～10.19)」を開催し、500人以上が参加した（平成30年10月の宮城オルレオープン以降の延べ利用者数：約7.7万人）。また、新たな宮城オルレオリジナルグッズの販売を開始した。 ・新規コース開設を目指す市町を支援し、蔵王・遠刈田温泉コース及び多賀城コースが、済州オルレから条件付きで認定を得た。 ・インバウンド向けには、済州オルレウォーキングフェスティバルに本県ブースを出展し、パンフレットを配布するなど宮城オルレのPRを行った。また、韓国のトレッキング商品を扱う旅行会社6社を県単独で招請し、宮城オルレを組み込んだツアー商品の造成につなげた。	○
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課	3,985	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	・県内まちづくり関係者とともに先進地視察を行ったほか、モデル地区の商店街団体に事業を委託し、賑わい創出イベントの実施や商店街を中心としたまちづくりの将来ビジョンを作成した。	○
宮城マスター検定事業	富県宮城推進室	827	ご当地検定の形式を用いて、宮城の特産品、観光地、イベント等産業関係の情報を中心に広く県内外にPRすることにより、宮城県の地域資源、産業全般に関する認知度を高めるとともに、地域産業の活性化を図る。	・本県の魅力を県内外に発信するため、宮城マスター検定1級試験を実施し、279人が受験したほか、出前講座を1回開催し、68人が参加した。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,232	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。 (1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR (2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等 (3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業 (4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。 ①食のブランド化事業 ・3県（山形、福島）連携マルシェ（11/3）の実施（来場者数約5,875人） ・管内道の駅と連携したスイーツとみやぎ蔵王三十六景地域の逸品マルシェを年3回開催（4、5、10月） ・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨7品目、推奨品目数88品目）、リーフレットやシール、POPによる販売促進の実施 ・県庁広報展示室での展示と連動した、地域の逸品販売会の開催（12月16～18日開催 売上約115万円） ②広域観光・食と物産情報の発信強化事業 ・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、開催し、キャンペーン終了後のフォロワー数がXで約1.6万人に増加 ・管内のひなまつり情報を、「ひなの郷せんなん」として一体的に広報するポスター及びリーフレットの作成とともに、同時期に開催した「仙南冬のスタンプラリー」企画と連動した広報により、閑散期となる冬季の広域周遊につなげた。 ③みやぎ蔵王温泉郷振興事業 ・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を活用したインスタグラムフォローキャンペーンを2回開催し、フォロワー数が1,682人に伸びた。 ④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計4回開催	○
3県（宮城・山形・福島）連携広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	東北中央道の開通等により、南東北3県（宮城仙南・山形置賜・福島県北）の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力を多くの方に知ってもらい、3県の相互交流を促進するため、各地域のスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。	・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3県の計32店舗、25観光スポットを周遊して、各地域のスイーツ店を1店舗以上及び観光スポットを1か所以上訪問することで応募可能となる「至福のスイーツトリップスタンプラリー」を8月1日から11月30日まで開催した。 ・総参加者数1,649人、応募総数181件総スタンプ取得数5,299件、応募には至らなかったが、総閲覧者数4,752件の閲覧があった。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	990	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を越えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の講座を2回開催 あわせて、大河原産業高校企画ビジネス科2年生を対象に、連続講座6回と実務者との合同講座1回を開催した。 実務者向けステップアップセミナー：補助金申請に関するセミナー延べ44人参加 高校生向けセミナー：連続講座6回、合同講座1回 延べ307人参加	○
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	2,402	仙台圏域が一体となった観光周遊施戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	①テーマ性をもった周遊ラリー企画と ②食と観光を連携させた取り組みとして、管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット（70店舗）を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域 めっちゃ！うまいっちゃ！スタンプラリー」を実施した。 参加者：2,189名 ③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート（じゃらんリサーチセンター）、リトル台湾 in 東北、金蛇水神社より講師を招き、令和7年2月14日に研修会を開催した。 参加者：市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等48名	○
仙台地域観光コンテンツ魅力発信事業	仙台地方振興事務所	1,320	(1)管内の地域資源を活かした魅力的な体験型コンテンツをSNSを通じて県内外に広く発信するもの。 (2)県ホームページに掲載している仙台南内観光ガイドブック「#せんだい WOW!な旅」の広告PRを行い、仙台・松島エリアへの誘客を図るもの。	(1)仙台・松島地域の旬なおすすめ観光スポットや飲食店等を、知名度が高いキャラクターを起用し、Instagramの共同投稿により情報発信を行った。また、SNSの閲覧数・認識性向上のため、SNS広告を活用し効果的な広報を実施する。 ＜紹介スポット＞24箇所 ＜Instagram投稿内容＞リール投稿：6本、フィード投稿：6本 ＜Instagram投稿閲覧数＞リール投稿再生回数：計48,602回、フィード投稿閲覧数：計23,428回 ＜Instagram広告＞表示回数：42,315回、クリック数1,495回 (2)Instagramに、仙台南内観光ガイドブック「#せんだい WOW!な旅」のホームページに誘導するWeb広告を3月12日～26日の期間で掲載。 ＜広告＞広告表示回数：203,738回、クリック数4,190回	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会事業	仙台地方振興事務所	261	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会の事務局として、関係市町村等と連携・協働しながら、圏域観光の推進を図る。	①管内市町村の特色PR事業として、9月21日、22日に仙台南の杜水族館において、観光誘客キャラバン及び管内事業者等による特産品販売会を実施した。 参加市町村数 13市町村 特産品販売会出店者数 10市町から 12店舗 ②部会員である JR 東日本東北本部が主催した「鉄道の日」イベントや四季島のお見送りへの参加。 ③地場産業振興協議会事業との連携 宮城黒川地域地場産業振興協議会が開催した物産展に観光PRブースを設置しパンフレットの配布等を行った。 ④Instagramを活用しモデルコースやテーマに沿った内容の観光・食の情報発信を市町村の枠を越えて共同投稿により行った。配信記事数 13件 平均リーチ数 1,820件	○
おおさき魅力発見事業	北部地方振興事務所	148	県内の小中高生を対象に、大崎地域でガイド体験会を実施し、大崎地域の魅力を体感しながら、興味を抱いた観光コンテンツの説明ができるようにすることで、参加者及びその家族、受入れ地域のシビックプライドの醸成につなげる。	・9月に県内の小中高生を対象に、プロのガイドと観光スポットを巡り、英語によるガイドの台本作成を行った。 ・作成した台本に基づき、11月には県内の小中高生が英語話者に対し、観光スポットでのガイドを英語で行う体験会を実施した。	
地域観光新発見事業	北部地方振興事務所	792	インバウンド旅行者を中心としたターゲットに対し、既存の鳴子温泉郷の観光資源等を掲載した「おくのほそ道散策マップ」及び「おくのほそ道ガイドマップ」を活用して、鳴子温泉郷を軸とした賑わいの創出や積極的な情報発信を実施し、誘客促進等を図る。	・「おくのほそ道散策マップ」に掲載されている観光施設等に関する情報の掘り起こしを行うとともに、現在掲載されている観光施設等の情報を更新した。 ・従来は日本語及び英語を使用し解説していた「おくのほそ道ガイドマップ」を英語及び中国語（繁体字）を使用した解説に改めるとともに、全体的なレイアウトの変更等を行った。	
シビックプライド醸成セミナー開催事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	89	栗原管内の観光関連産業従事者等を対象として、地元の魅力を再確認するセミナーを開催する。	・花の百名山でもある栗駒の魅力を県内外の観光客に向けて発信することをテーマにしたセミナーを3回（延べ37名）を開催した。	○
地元定着意識醸成事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	797	登米市内の小中高生等を対象に、登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史に触れる機会を作るほか、登米地域の魅力を発信できる人材を育成することで、若者の地元定着意識の醸成を図る。	「みやぎの明治村歴史探訪」の開催（R6.10.5、10.6、11.3、11.17） 登米市内の小中高生や小学生親子を対象に、観光ガイドから登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史について学ぶことができるイベントを開催した。（計4回開催、参加者48名）	○
体験型観光コンテンツ掘り起こし・磨き上げ事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	87	登米市内内外の小学生を対象に、登米の魅力に触れることができるクラフトツーリズム体験及びグリーンツーリズム体験をテーマとした体験会を開催するとともに、登米地域内の農泊施設について、近隣地域と連携し、継続的にフォローアップ支援を行うことにより、体験型観光コンテンツの掘り起こし及び磨き上げを図る。	①登米の魅力体験会の開催・小学生の親子を対象に登米市の魅力を発見してもらうことや体験コンテンツの磨き上げを目的とした「小学生の親子対象 登米の魅力体験会」を開催した。開催日・参加者数：グリーンツーリズム編 10.21・14名、クラフトツーリズム編 R6.11.16・17名 ②登米の農泊等の運営フォローアップ支援・登米地域内の農泊施設へのヒアリングを実施。・グリーンツーリズム体験提供者を対象とした「グリーン・ツーリズム安全管理研修会」を東部地方振興事務所農業振興部と共催した。開催日：R7.2.13	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
宮城県戦略的魅力発信事業	広報課	22,466	県内外に向け、宮城の様々な魅力を総合・横断的に広報する。	・全国放送網のテレビを活用したパブリシティにより、宮城の様々な魅力を発信し、8企画の露出を獲得した。また、インスタグラムのアカウント名をリニューアルし、プレゼントキャンペーンを実施することで、フォロワーを獲得し、若年層を中心に幅広い世代に訴求を図った。	○
湿地環境保全・利活用事業	自然保護課	45,630	多種多様な生物が生息する淡水湖沼の生態系を有していた伊豆沼・内沼への再生を目指し、沈水植物や在来生物を増加させるための自然再生事業を実施するとともに、ワイズユースの推進及び普及啓発のため、ラムサール条約湿地の魅力を発信し、自然との触れ合いによる環境教育の場の整備を図る。	・地元関係者や専門家で構成される伊豆沼・内沼自然再生協議会との連携を図りながら、外来種駆除や在来生物の増殖事業等の自然再生事業を実施した。また、湿地の魅力を発信するため、水生植物園内に水生植物の解説看板(3基)及び誘導看板(2基)を設置、観察水路の拡張や足場の整備等を実施。	○
蔵王芝草平保全対策事業	自然保護課	47,213	キンコウカ、イワショウブなど高山植物の宝庫となっている蔵王国定公園の芝草平は、植生の破壊が進んだことから平成18年度に木道を設置、公園利用者の無秩序な立入を防止し、植生の保護を図っている。 この木道が経年劣化により利用者に危険を及ぼす恐れがあることから、老朽化対策として木道の更新を行う。	・木道等の更新工事の実施 木道(L=0.05km)、休憩所工(3箇所)、看板工(撤去:1基)	○
自然の家人と自然の交流事業	生涯学習課	1,732	各県立自然の家の立地環境を生かし、自然環境への興味関心を高める自然体験活動プログラムを実施する。	・各自然の家で自然環境への興味関心を高める自然体験活動プログラムを実施した。 ＜蔵王自然の家＞ めざせ！蔵王マイスター(全3回)①20名②20名③14名 蔵王に登ろう！山ガール教室(全3回)①34名②29名③42名 野外活動指導者研修会 35名参加 リフレッシュ in 蔵王 13名参加 ＜松島自然の家＞ バードウォッチング入門 13名参加 宮戸島ウォーク1 21名参加 ＜志津川自然の家＞ シュノーケリング入門 27名参加 バードウォッチング入門(全2回)①20名②24名 親子でウインターチャレンジ 16名参加	

(3) 震災の経験を生かした復興ツーリズムや教育旅行の展開

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課	85,739	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	・国内校向け教育旅行バス助成事業として、339件、34,124,000円を交付した。 ・国外校向け教育旅行バス助成事業として、13件、965,000円を交付した。 ・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(173件、延べ5,991名) ・首都圏中学校長を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。	○
風評被害等観光客実態調査事業	観光戦略課	10,509	東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害の実態把握や今後の観光施策を検討する上での基礎資料とするため、観光客へのアンケート調査等を行う。	・県内主要観光地での観光客(外国人観光客含む)へのアンケート調査(県内13地点・四半期毎)及び全国の一般消費者を対象にWEBアンケート調査(6,500票)にて実態調査等を行い、東京電力福島第一原発事故以降の本県観光への風評の実態把握に努めた。	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課	2,660	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計32回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。	○
地域支援事業(地域振興型)	東部地方振興事務所	1,980	石巻圏域の多様な地域資源を活用した観光誘客を図るため、新しい観光コンテンツ等の発掘や磨き上げを図るためのモニターツアーを実施し、外部視点による石巻圏域の魅力の発見と、その魅力を観光資源として利活用することについて検証するとともに、モニターツアーにより石巻圏域の魅力を内外に情報発信することにより、交流人口の拡大と地域の活性化を目指すもの。	・石巻圏域における「みちのく潮風トレイル」と「寿司・海鮮」の認知度向上のため、体験モニターツアー(みちのく潮風トレイル、寿司・海鮮)を実施したものの。 みちのく潮風トレイルツアー:15名参加 寿司・海鮮ツアー:14名参加	○
首都圏復興フォーラム事業運営事業	復興支援・伝承課	1,702	東日本大震災の風化防止と震災復興に対する全国からの幅広い支援の継続を訴えるため、青森・岩手・福島の被災各県及び東京都と連携し被災地の復興状況や復興に向けた取組を首都圏の住民やマスコミに広く情報提供するフォーラムを開催する。	①現地イベント 期間:令和7年3月7日(金)から令和7年3月11日(火)まで 会場:汐留シオサイト(東京都港区東新橋1-5-25) 内容:東北ゆかりの著名人のメッセージ動画等放映/震災アーカイブ映像放映/復興情報パネル展示/応援メッセージボード掲出/東北四県復興ツーリズム関連情報/被災地支援取組紹介/VR体験/防災関連展示/都県知事共同メッセージ/県産品の販売などの実施により、被災地の復興に対する来場者の機運の醸成を図る。 来場者数:6,756人 ②SNSキャンペーン 期間:令和7年2月1日(土)12:00～令和7年3月11日(火)23:59 内容:とっておきの東北(青森県、岩手県、宮城県、福島県)の写真をInstagramまたはX(旧Twitter)で投稿していた。 応募数:1,403件	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
東日本大震災被災地情報発信事業	復興支援・伝承課	19,333	東日本大震災の風化防止につなげるため、来県者向けに県内の主要な風化防止・伝承施設を紹介する多言語対応の冊子等を作成し、情報発信を行うほか、被災地の復興支援に向けた魅力発信として、広報誌や動画などを作成する。	・冊子「みやぎ・復興の歩み14」、広報紙「Baton」、「東日本大震災復興情報コーナー」等の広報媒体を活用し、復興情報の発信を図ったほか、オンラインコンテンツの多言語化を実施した。 - 冊子「みやぎ・復興の歩み14」令和7年3月に10,000部発行し、公共施設を中心に約2,200カ所へ発送。 - 広報紙「Baton」年4回、各20,000部の発行。 - オンラインコンテンツの整備 - 県ウェブサイト内で整備した「みやぎオンライン伝承館」で視聴できるインタビュー動画の多言語化（R6は韓国語）を行った。	
交流人口拡大による被災地活性化事業	復興支援・伝承課	5,891	東北観光推進機構と連携し、マーケティング等を行い、東北DMPを活用し誘客を見据えた現状分析と今後の被災地に交流人口を増やしていくための戦略の構築、既存ツールに震災伝承を切り口としたコンテンツの追加に加え、関係者のモニターツアーの実施や満足度調査の実施等に取り組むことで磨き上げを行い、継続的に人を呼び込むことができる仕組みの構築を目指し、その後のプロモーションにつなげていくもの。	・東北DMPやCRMシステムを活用したマーケティングとモデルコースの造成（台湾向け3コース） ・モニターツアーとその後のアンケート調査による磨き上げの実施 ・東北観光推進機構ウェブサイトにおいて特設サイトを作成。 - また、パンフレットを作成し、台湾で行われる大型イベント等でPRを行った。 ・令和5年度に造成した国内向けモデルコースのプロモーションとしてweb広告及びスタンプラリーを実施した。	
震災伝承教育旅行受け入れ体制強化事業	復興支援・伝承課	2,761	教育旅行や企業研修等、県外からの誘客受け入れ態勢を構築するため、県内伝承団体のPRツールの作成やデータベース化等を行うもの。	・県内伝承団体等へのヒアリングを実施し、教育旅行等のニーズを踏まえた受入先の磨き上げを行うとともに、団体毎の実施プログラムの特色や対象等をまとめたタリフ表を作成したほか、教育旅行等誘致プロモーションでの発信を行った。 - 今年度実施地域・ヒアリング実施箇所数：県南地区8箇所 - プロモーション実施数：18回	
震災復興・伝承みやぎルート整備事業	道路課	59,200	自転車を活用した観光地域づくりを通じて、サイクルツーリズムの促進や地域活性化を支援するため、「宮城県自転車活用推進計画」に基づき、自転車通行環境の整備等を行う。	・塩竈市内、多賀城市内、七ヶ浜町内の県道塩釜七ヶ浜多賀城線の自転車走行環境整備を推進した。	

成長戦略1 合計 94事業 1,576,086千円

成長戦略2 観光産業の体制強化

農林水産業等の関連産業との連携強化等により、体験型プログラムの充実によるコト消費への転換を図ったほか、広域連携による誘客や地域資源を活用した情報発信、観光コンテンツの磨き上げを積極的に展開した。また、観光産業を牽引する「人財」の育成と活躍できる環境づくりの取組を推進した。

(1) 地域経済循環力の強化

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課	85,739	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	・国内校向け教育旅行バス助成事業として、339件、34,124,000円を交付した。 ・国外校向け教育旅行バス助成事業として、13件、965,000円を交付した。 ・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(173件、延べ5,991名) ・首都圏中学校長を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。	○
フィルムコミッション推進事業	観光戦略課	2,044	映画、テレビを通じて当県の魅力を内外に広く発信し、当県の知名度向上と観光集客力の強化を推進するため、「せんだい宮城フィルムコミッション」に参画して、映画、テレビ等の撮影のロケーションの誘致、支援等を行う。	・「せんだい・宮城フィルムコミッション」の所属団体として、映画、テレビ番組、コマーシャル等のロケーション撮影の支援及び誘致の取組に対して支援した。 「せんだい・宮城フィルムコミッション」における支援件数194件、撮影実績45件	○
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光戦略課	165,283	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	・荒廃した県内の登山道や遊歩道の整備(蔵王町、七ヶ宿町)などを行ったほか、広域観光案内板の盤面更新(蔵王町、川崎町)を行った。	○
観光地の空間的的魅力創出事業	観光戦略課	29,266	ポストコロナの観光需要回復に向けた受入環境整備として、民間事業者が行う宿泊・観光施設等の改修等の改修に係る取組を支援することにより、観光需要の拡大、収益・生産性向上等の実現を図り、地域・産業の「稼ぐ力」の回復・強化を図るもの。	観光庁補助事業「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化」事業の交付決定を受けた民間事業者を対象として、県から嵩上げ補助を行い、地域が一体となって受入環境整備を実施した。交付決定件数:18施設(大崎市内:12施設、蔵王町内:6施設)	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課	2,660	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計32回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。	○
宮城ワーケーション情報環境整備推進事業	観光戦略課	1,379	宮城におけるワーケーションの一層の普及促進を図るため、県内のワーケーション施設等の情報を一元化したポータルサイトを構築し、効果的な情報発信を行う。	・令和4年度に開設したWEBサイト「Miwork 宮城」において、ワークスペース、宿泊施設及び観光施設等のワーケーション情報を一元化して発信することで、宮城のワーケーションの普及促進及び利用者の利便性向上に努めた。 掲載施設数:139件 総ページビュー数:68,577ビュー	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
観光誘客推進事業	観光戦略課	80,091	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	・「みやぎ応援ポケモン」ラプラスを活用した事業のほか、みやぎのお酒を活用した「コト消費」ツアーの造成・プロモーション、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。 「ラプラス+宮城巡り ポケふたスタンプラリー」 エントリーユーザー数 3,967 人 「ラプラス+宮城巡り in 仙臺緑彩館」 来場者 16,000 人	○
仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	観光戦略課	12,307	仙台・宮城観光 PR キャラクター「むすび丸」を活用した本県観光の PR 活動を実施し、県内への誘客を図る。	・発地側でのイベント等における本県の観光キャンペーンの告知及び本県観光情報の PR 活動、着地側でのツアー観光客のお出迎え、県内の観光素材発掘、動画撮影、SNS を利用したむすび丸による PR 動画の配信等を実施した。 - むすび丸による観光 PR、おもてなし 120 回 - メディア出演等 4 本	○
宮城オルレ推進事業	観光戦略課	40,032	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	・国内観光に向けには「宮城オルレフェア 2024(R6. 9. 14～10. 19)」を開催し、500 人以上が参加した（平成 30 年 10 月の宮城オルレオープン以降の延べ利用者数：約 7.7 万人）。また、新たな宮城オルレオリジナルグッズの販売を開始した。 ・新規コース開設を目指す市町を支援し、蔵王・遠刈田温泉コース及び多賀城コースが、済州オルレから条件付きで認定を得た。 ・インバウンド向けには、済州オルレウォーキングフェスティバルに本県ブースを出展し、パンフレットを配布するなど宮城オルレの PR を行った。また、韓国のトレッキング商品を扱う旅行会社 6 社を県単独で招請し、宮城オルレを組み込んだツアー商品の造成につなげた。	○
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課	3,985	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	・県内まちづくり関係者とともに先進地視察を行ったほか、モデル地区の商店街団体に事業を委託し、賑わい創出イベントの実施や商店街を中心としたまちづくりの将来ビジョンを作成した。	○
みやぎの伝統的工芸品産業振興事業	新産業振興課	8,103	国及び県指定の伝統的工芸品について、新商品開発や販路拡大等の支援を行い、伝統工芸産業の普及・振興を図るとともに、工芸品や各産地の魅力を情報発信する。	・国及び県指定の伝統的工芸品の新商品開発や需要開拓等の事業に対する経費の一部を補助、展示会への出展を通して販路拡大等の支援を行った。 - 伝統的工芸品製造事業者への補助金交付 8 件 - 伝統的工芸品に係るイベント等への参加 8 件	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
次世代型商店街形成支援事業	商工金融課	6,898	商店街のニーズや商店街を取り巻く環境の変化に適合した、次世代を見据えた持続的で発展的な商店街の構築を図るため、商店街団体等が行う商店街ビジョン形成及びビジョンに基づく課題解決の取組を支援する。	・1 商店街に対してビジョン形成、ビジョンに基づく課題解決の支援を実施した。 ビジョン形成支援 1 件 700 千円 課題解決支援 3 件 6,198 千円	
商店街NEXTリーダー創出事業	商工金融課	8,175	魅力ある商店街の形成を促進するため、先進事例等を学ぶセミナー、実践事業への補助及びネットワーク会議により、商店街活動の新たな担い手や中心人物の創出を支援する。	・若手・女性商業者の人材育成やトライアル活動等に対する支援を実施した。 商業者向けセミナー 3 コース 25 名修了 トライアル活動・魅力発信支援 10 団体 2,948 千円 ネットワークミーティング 1 回 54 名参加	
中小企業経営安定資金等貸付金	商工金融課	160,000	観光客の利便性の向上及び安全・安心の確保を図るため、中小企業者が観光施設の整備等を行う際に、“伊達な旅”整備促進資金等の県制度融資により、資金融通の円滑と観光産業の振興を図る。	・観光施設の整備等を行う中小企業者に対し、“伊達な旅”整備促進資金等による融資を行い、資金の融通を図った。 “伊達な旅”整備促進資金 3 件 金額 79,950 千円	
県産食品海外ビジネスマッチングサポート事業	国際ビジネス推進室	13,314	農林水産物の輸出に取り組む事業者のスタートアップから海外ビジネス展開の段階に応じて細やかな個別支援を実施するとともに、輸出に当たって課題となる物流面などの課題解決に向けたバリューチェーンのモデル構築により更なる輸出拡大を図るもの。	・県産品販路開拓コーディネーターによる企業の貿易実務の個別相談対応や商談支援等 (281 件) ・宮城県食品輸出促進協議会と連携した輸出セミナーの開催 (3 回) ・輸出商社や海外バイヤー、現地リテール等と連携した海外フェア・商談会の開催 (20 回) ・事業者の輸出促進活動 (海外商談会等) への補助金交付 (11 件 : 2,514 千円) ・課題解決型輸出拡大バリューチェーンモデル構築事業費補助金交付 (1 件 : 405 千円)	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,232	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。 (1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR (2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等 (3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業 (4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。 ①食のブランド化事業 ・3県（山形、福島）連携マルシェ（11/3）の実施（来場者数約5,875人） ・管内道の駅と連携したスイーツとみやぎ蔵王三十六景地域の逸品マルシェを年3回開催（4、5、10月） ・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨7品目、推奨品目数88品目）、リーフレットやシール、POPによる販売促進の実施 ・県庁広報展示室での展示と連動した、地域の逸品販売会の開催（12月16～18日開催 売上約115万円） ②広域観光・食と物産情報の発信強化事業 ・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、開催し、キャンペーン終了後のフォロワー数がXで約1.6万人に増加 ・管内のひなまつり情報を、「ひなの郷せんなん」として一体的に広報するポスター及びリーフレットの作成とともに、同時期に開催した「仙南冬のスタンプラリー」企画と連動した広報により、閑散期となる冬季の広域周遊につなげた。 ③みやぎ蔵王温泉郷振興事業 ・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を活用したInstagramフォローキャンペーンを2回開催し、フォロワー数が1,682人に伸びた。 ④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計4回開催	○
仙南アドベンチャーツーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	984	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーツーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信として、当所ウェブサイト「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」のページを作成 ・紙媒体「仙南アドベンチャーマップ」を10,000部作成し、仙台市内の子育て施設等を中心に237箇所に配布することで、仙南圏域が子育てに適した地域であるということをアピール ・「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」に誘導するためのウェブ広告3種を実施	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	1,016	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏) (2)独自企画 秋冬周遊企画 (3)「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業	・仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。 ①夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2024」(R6.7～9月)を実施。応募総数1,201通 ②大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業 ・R6.11.17 SennanCyclingDayでの参加者への補給食等の提供や観光PRの実施 ③みやぎ仙南応援大使第1号「新井ひとみ氏」を活用した当所事業のPR	○
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	2,402	仙台圏域が一体となった観光周遊戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	①テーマ性をもった周遊ラリー企画と ②食と観光を連携させた取り組みとして、管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット(70店舗)を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域 めっちゃ！うまいっちゃ！スタンプラリー」を実施した。 参加者：2,189名 ③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート(じゃらんリサーチセンター)、リトル台湾 in 東北、金蛇水神社より講師を招き、令和7年2月14日に研修会を開催した。 参加者：市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等48名	○
仙台地域観光コンテンツ魅力発信事業	仙台地方振興事務所	1,320	(1)管内の地域資源を活かした魅力的な体験型コンテンツをSNSを通じて県内外に広く発信するもの。 (2)県ホームページに掲載している仙台南管内観光ガイドブック「#せんだいWOW!な旅」の広告PRを行い、仙台・松島エリアへの誘客を図るもの。	(1)仙台・松島地域の旬なおすすめ観光スポットや飲食店等を、知名度が高いキャラクターを起用し、Instagramの共同投稿により情報発信を行った。また、SNSの閲覧数・認識性向上のため、SNS広告を活用し効果的な広報を実施する。 ＜紹介スポット＞24箇所 ＜Instagram投稿内容＞リール投稿：6本、フィード投稿：6本 ＜Instagram投稿閲覧数＞リール投稿再生回数：計48,602回、フィード投稿閲覧数：計23,428回 ＜Instagram広告＞表示回数：42,315回、クリック数1,495回 (2)Instagramに、仙台南管内観光ガイドブック「#せんだいWOW!な旅」のホームページに誘導するWeb広告を3月12日～26日の期間で掲載。 ＜広告＞広告表示回数：203,738回、クリック数4,190回	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会事業	仙台地方振興事務所	261	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会の事務局として、関係市町村等と連携・協働しながら、圏域観光の推進を図る。	①管内市町村の特色PR事業として、9月21日、22日に仙台うみの杜水族館において、観光誘客キャラバン及び管内事業者等による特産品販売会を実施した。 参加市町村数 13市町村 特産品販売会出店者数 10市町から12店舗 ②部会員であるJR東日本東北本部が主催した「鉄道の日」イベントや四季島のお見送りへの参加。 ③地場産業振興協議会事業との連携 宮城黒川地域地場産業振興協議会が開催した物産展に観光PRブースを設置しパンフレットの配布等を行った。 ④Instagramを活用しモデルコースやテーマに沿った内容の観光・食の情報発信を市町村の枠を越えて共同投稿により行った。 配信記事数 13件 平均リーチ数 1,820件	○
地域食材魅力発信事業	北部地方振興事務所	132	大崎地域のイベントである「おおさき食楽まつり」において、来場者に対して地域食材の魅力を発信し消費拡大に繋げるもの。また、大崎地域の農産物直売所を取材し、FacebookやInstagram等で情報発信する。	・10月に開催した「おおさき食楽まつり」において、来場者に対して地域食材の魅力を発信し消費拡大に繋げた。 ・大崎地域の農産物直売所等を取材し、FacebookやInstagramによる情報発信を12回行った。	
体験型観光コンテンツ掘り起こし・磨き上げ事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	87	登米市内外の小学生を対象に、登米の魅力に触れることができるクラフトツーリズム体験及びグリーンツーリズム体験をテーマとした体験会を開催するとともに、登米地域内の農泊施設について、近隣地域と連携し、継続的にフォローアップ支援を行うことにより、体験型観光コンテンツの掘り起こし及び磨き上げを図る。	①登米の魅力体験会の開催 ・小学生の親子を対象に登米市の魅力を発見してもらうことや体験コンテンツの磨き上げを目的とした「小学生の親子対象 登米の魅力体験会」を開催した。 開催日・参加者数：グリーンツーリズム編 R6.10.21・14名、クラフトツーリズム編 R6.11.16・17名 ②登米の農泊等の運営フォローアップ支援 ・登米地域内の農泊施設へのヒアリングを実施。 ・グリーンツーリズム体験提供者を対象とした「グリーン・ツーリズム安全管理研修会」を東部地方振興事務所農業振興部と共催した。 開催日：R7.2.13	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「宮城オルレフェア 2024」のコースイベント（10/12）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともにイベント運営業務に従事し、プロモーション活動を支援した。	○
地域資源を活用したアウトドアアクティビティ観光推進事業	気仙沼地方振興事務所	1,499	トレイル初心者や交通手段の問題で躊躇していた層の新規顧客の開拓を図るとともに、リピーター確保に繋げるため、みちのく潮風トレイルの気仙沼・南三陸セクションを4コース程度の短い区間に分け、トレイルだけでなく、地域探索や地元民との交流などを盛り込んだ日帰りイベント（仙台発着バスツアー）を実施する。	気仙沼・南三陸圏域の観光資源である「みちのく潮風トレイル」と、観光やグルメなどの体験コンテンツを組み合わせた仙台発着の日帰りバスツアーを実施することで、その魅力を広く発信するため、ツアーを仙台発着のバスツアーを計4回開催した。（参加者：計60人） また、みちのく潮風トレイルや自然や文化を体験するアドベンチャーツーリズムなどのガイドを育成するための研修会を1回開催した。（参加者：計19人）	○
ガストロノミーツーリズム推進事業	気仙沼地方振興事務所	979	当圏域の気候風土が育んだ食をテーマとして、その習慣・伝統・歴史などを体験する観光コンテンツを造成し、インバウンドをはじめとする観光客の誘いに繋げるもの。	気仙沼・本吉圏域の農水産物を活用して、ベジタリアンやハラルフードを摂る人向けのメニューを開発するとともに、地元飲食店等へのレシピの共有、メニュー等の多言語化により、当圏域へのインバウンド観光客の誘致及びガストロノミーツーリズムの推進を支援した。 開発メニュー：4種類 メニュー発表会参加者：29人（観光関係者、飲食事業者等） 翻訳言語数：3（インドネシア語、英語、中国語（繁体字））	○
むらまち交流拡大推進事業	農山漁村なりわい課	3,268	農山漁村と都市の交流活動を推進するため、地域の受入体制づくりと交流活動に向けた広報や情報発信を行う。また、広域ネットワーク組織を設置し、地域間の連携を強化する。	・農泊地域のニーズに合わせたテーマ別研修会・交流会開催（2回） ・みやぎの農泊サイトのリニューアルによる情報発信の強化 ・農山漁村交流アドバイザー派遣の実施（3回） ・農泊実践者向けの圏域研修会の開催（1回）	○
地域資源・キャリア人材フル活用事業	農山漁村なりわい課	— (非予算)	農山漁村地域において、農泊等の受入体制づくりや都市と地域の交流に向けたコーディネーター人材の育成を支援する。	・みやぎの INAKA 応援し隊による地域活動実施	○
シン・令和のむらづくり推進事業（しごと・くらし体験）	農山漁村なりわい課	6,414	農山漁村地域に多様な形で関わる関係人口の創出・拡大を図るため、県内外の社会人や学生を対象とした各種プログラムを通じ、「新たな地域滞在型交流」を促進する。	・地域滞在型交流プログラムの作成支援（3地域）	○
仙台港周辺地域における賑わい創出事業	公営事業課	— (非予算)	仙台港周辺地域に立地する企業を中心に設立された官民連携組織である「仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム」を推進母体として、仙台港周辺地域のポテンシャルを活かした観光資源の磨き上げを図る。	・ウォーキングを通じ、仙台港周辺地域の自然や、商業・工業地域などの景色を楽しみながら歩いてもらうことで地域の魅力を発見してもらうことを目的に「みなとオアシス仙台港ウォーク」を実施した。（151名の参加） ・なお、取組は仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム会員企業の年会費を事業費として実施している。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
地域と連携した 高等学校魅力化 事業	高校教育課	7,051	地域等の諸課題の解決に取り組む等、生徒が学びたくなり、地域に根差した開かれた学校づくりを展開している高校を指定し、学校運営協議会や地域パートナーシップ会議等により地域資源を活用しながら、学びの意識や自己の役割に対する認識を深める教育プログラム等の工夫について支援する。 ※「魅力ある県立高校づくり支援事業」の後継事業。 ・令和5年度まで、観光関係の取組は松島高校を指定 ・令和6年度新規募集：2月下旬～3月 ・令和6年度指定校決定：4月下旬	・観光ガイドを実習として8団体860人を受け入れ実施した。受入団体の多くは、修学旅行であるが、中には一般の方を対象としたおもてなしツアーも含まれている。 ・コロナ禍で中断していた宿泊を伴うホテル実習を試験的に再開させ、14日間実施することができた。生徒への教育的効果とともに、受入団体や学校の意向等を精査し、より一層効果の高い実習にしていきたい。 ・ガイド実習中に災害が発生した際に、安全に観光客を誘導できるように避難訓練を実施した。	
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	2,977	日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。	・紹介パネル展8回 ・小中学生向けイベント4回、参加173人 ・講座・出前授業等の対応14件（参加者685名） ・公式SNSによる情報発信（Facebook・Instagram 合計フォロワー1,086人） ・文化財アクリルスタンド販売730個 ・特別名勝松島ハンドブック販売24冊 ・文化財カード配布による周遊促進（文化財の観覧、文化財関連イベント参加で配布約700枚） ・日本遺産ガイド養成講座 2回、参加45人 ・松島ガイドプログラム「景観と信仰」1回、参加9人 ・松島五大堂の説明板改修による周遊促進 ・東北歴史博物館に日本遺産ガイドンスコーナーの設置	○
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	4,830	持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。	・多賀城跡に関わる講演会及び歴史講座等を開催した。 参加人数：講演会233人、講座213人（2回計） ・VRミュージアムのコンテンツを拡充し、特別展「多賀城1300年」及び教育普及事業「冬の体験イベント」での体験会を実施した（延べ利用人数197人）。 ・体験学習ゾーンの「こども歴史館」において、常設のVRミュージアム体験ブースを設置・運用した（設置後のこども歴史館の利用人数5,290人）。	○

(2) 地域を支える観光人財の育成・確保

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
教育旅行誘致促進事業	観光戦略課	85,739	教育旅行を通じて本県の魅力を伝えることは、将来的に進学、就職、家族の旅行先などのリピーターづくりにも繋がり、長期的な交流人口の確保が見込めることから、教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行等コーディネート支援センターの運営及び北海道、関東、中部以西等でプロモーションを実施する。	・国内校向け教育旅行バス助成事業として、339件、34,124,000円を交付した。 ・国外校向け教育旅行バス助成事業として、13件、965,000円を交付した。 ・旅行者の相談や受入調整などのマッチング支援を実施した。(173件、延べ5,991名) ・首都圏中学校長を対象とした教育旅行モニターツアーを開催した。	○
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課	2,660	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計32回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。	○
未来を担う観光人材プロジェクト	観光戦略課	5,741	観光産業を持続的に成長させていくため、通訳ガイドの育成を目的として、県内の学生や全国通訳案内士等を対象とした研修会や研修内容の実践・活躍機会創出の支援を実施するほか、宿泊施設における人材の育成・確保を目的として、県内の学生等を対象とした宿泊業の実習機会の創出や、就職定着を支援する。	・全国通訳案内士、ボランティアガイド等を対象に、基礎研修会を2回、実践力向上研修会を1回開催した。 ・基礎研修会及び実践力向上研修会受講者を対象に、実践模擬ツアーを1回開催した。 ・研修会受講者及び実践模擬ツアー受講者を対象に、県内観光関連事業者とのマッチング交流会を1回開催した。 ・宿泊事業者と求職者を対象とした情報交換会を3回開催し、6名(7回)の現場実習を実施したほか、3名の雇用につながった。	
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課	3,985	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	・県内まちづくり関係者とともに先進地視察を行ったほか、モデル地区の商店街団体に事業を委託し、賑わい創出イベントの実施や商店街を中心としたまちづくりの将来ビジョンを作成した。	○
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	990	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を超えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の講座を2回開催 - あわせて、大河原産業高校企画ビジネス科2年生を対象に、連続講座6回と実務者との合同講座1回を開催した。 - 実務者向けステップアップセミナー：補助金申請に関するセミナー延べ44人参加 - 高校生向けセミナー：連続講座6回、合同講座1回 延べ307人参加	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	2,402	仙台圏域が一体となった観光周遊戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	①テーマ性をもった周遊ラリー企画と②食と観光を連携させた取り組みとして、管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット（70店舗）を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域 めっちゃ！うまいっちゃ！スタンプラリー」を実施した。 参加者：2,189名 ③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート（じゃらんリサーチセンター）、リトル台湾 in 東北、金蛇水神社より講師を招き、令和7年2月14日に研修会を開催した。 参加者：市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等48名	○
インバウンド受入態勢強化事業	東部地方振興事務所	543	飲食店や宿泊施設等の外国人観光客とのコミュニケーション能力向上に向けた支援を行うことにより、石巻地域におけるインバウンド受入態勢を強化する。また、世界に向け石巻地域の復興状況や魅力を発信し、新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンドを促進する。	・管内各市町、各観光協会、観光関連事業者の職員を対象に、インバウンド研修を実施した。 研修会 1回、26人 ・地域のガイド又はガイド希望者を対象に外国人観光客案内ガイド向け研修を開催した。 研修会 1回、7人 ・公式 Facebook（英語・中国語版）による情報発信を実施した。 英語版 51回、中国語版 51回	○
地元定着意識醸成事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	797	登米市内の中高校生等を対象に、登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史に触れる機会を作るほか、登米地域の魅力を発信できる人材を育成することで、若者の地元定着意識の醸成を図る。	「みやぎの明治村歴史探訪」の開催（R6.10.5、10.6、11.3、11.17） 登米市内の中高校生や小学生親子を対象に、観光ガイドから登米地域の歴史や伝統文化・芸能及び宮城県誕生の歴史について学ぶことができるイベントを開催した。（計4回開催、参加者48名）	○
体験型観光コンテンツ掘り起こし・磨き上げ事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	87	登米市内外の小学生を対象に、登米の魅力に触れることができるクラフトツーリズム体験及びグリーンツーリズム体験をテーマとした体験会を開催するとともに、登米地域内の農泊施設について、近隣地域と連携し、継続的にフォローアップ支援を行うことにより、体験型観光コンテンツの掘り起こし及び磨き上げを図る。	①登米の魅力体験会の開催 ・小学生の親子を対象に登米市の魅力を発見してもらうことや体験コンテンツの磨き上げを目的とした「小学生の親子対象 登米の魅力体験会」を開催した。 開催日・参加者数：グリーンツーリズム編 R6.10.21・14名、クラフトツーリズム編 R6.11.16・17名 ②登米の農泊等の運営フォローアップ支援 ・登米地域内の農泊施設へのヒアリングを実施。 ・グリーンツーリズム体験提供者を対象とした「グリーン・ツーリズム安全管理研修会」を東部地方振興事務所農業振興部と共催した。 開催日：R7.2.13	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	2,977	日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。	・紹介パネル展 8 回 ・小中学生向けイベント 4 回、参加 173 人 ・講座・出前授業等の対応 14 件（参加者 685 名） ・公式 SNS による情報発信（Facebook・Instagram 合計フォロワー1,086 人） ・文化財アクリルスタンド販売 730 個 ・特別名勝松島ハンドブック販売 24 冊 ・文化財カード配布による周遊促進（文化財の観覧、文化財関連イベント参加で配布約 700 枚） ・日本遺産ガイド養成講座 2 回、参加 45 人 ・松島ガイドプログラム「景観と信仰」1 回、参加 9 人 ・松島五大堂の説明板改修による周遊促進 ・東北歴史博物館に日本遺産ガイドスコーナールの設置	○
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	4,830	持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。	・多賀城跡に関わる講演会及び歴史講座等を開催した。 参加人数：講演会 233 人、講座 213 人（2 回計） ・VR ミュージアムのコンテンツを拡充し、特別展「多賀城 1300 年」及び教育普及事業「冬の体験イベント」での体験会を実施した（延べ利用人数 197 人）。 ・体験学習ゾーンの「こども歴史館」において、常設の VR ミュージアム体験ブースを設置・運用した（設置後のこども歴史館の利用人数 5,290 人）。	○

成長戦略2 合計 44事業 764,479千円

成長戦略3 受入環境の整備促進

沿岸部のにぎわい創出に向け、観光集客施設の設置に向けた助成を行ったほか、クルーズ船の県内寄港に向けた取組を推進した。また、キャッシュレス化の推進や、無料公衆無線LAN整備を通して、観光客の利便性向上に努めると共に、観光客の安全な利用に配慮した自然公園施設の整備に取り組んだ。

(1) 旅行者の安全・安心確保

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光戦略課	165,283	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	・荒廃した県内の登山道や遊歩道の整備(蔵王町、セツ宿町)などを行ったほか、広域観光案内板の盤面更新(蔵王町、川崎町)を行った。	○
みやぎエコ推進バス運行補助事業	観光戦略課	561	観光地の保全を図りながら、エコに関する県民意識の向上を促すため、エコの視点を取り入れ、観光地における循環バス・シャトルバスの運行事業などに係る経費の補助を行う。	・観光地と駐車場等を結ぶシャトルバスの運行経費を助成した。(交付決定件数4件)	
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課	2,660	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計32回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。	○
多文化共生推進事業	国際政策課	6,901	多文化共生の基本理念の普及・浸透を目指し、「宮城県多文化共生社会推進計画」に基づき、今後一層の増加が見込まれる外国人に対し、地域において更なる受入環境整備を図ることを目的とした事業を実施する。	・みやぎ外国人相談センターの設置運営(相談件数363件) ・災害時通訳ボランティアの整備(登録者数121人、20言語) ・多文化共生フォーラムの開催(1回、参加者78人) ・民生委員児童委員向けやさしい日本語講座の開催(3回、参加者244人) ・多文化共生啓発動画(5か国語)を作成し9月楽天ホームゲーム4試合で放映、市町村役場等で放映 ・外国人相談センターカード15,000部を作成し、県内351郵便局等に配布した。 ・多文化共生社会推進審議会の開催(2回) ・日本語学校、外国人県民等とのネットワークを構築するため、意見交換会を開催(2回)	
体験型観光コンテンツ掘り起こし・磨き上げ事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	87	登米市内外の小学生を対象に、登米の魅力に触れることができるクラフトツーリズム体験及びグリーンツーリズム体験をテーマとした体験会を開催するとともに、登米地域内の農泊施設について、近隣地域と連携し、継続的にフォローアップ支援を行うことにより、体験型観光コンテンツの掘り起こし及び磨き上げを図る。	①登米の魅力体験会の開催 ・小学生の親子を対象に登米市の魅力を発見してもらうことや体験コンテンツの磨き上げを目的とした「小学生の親子対象 登米の魅力体験会」を開催した。 開催日・参加者数：グリーンツーリズム編 R6.10.21・14名、クラフトツーリズム編 R6.11.16・17名 ②登米の農泊等の運営フォローアップ支援 ・登米地域内の農泊施設へのヒアリングを実施。 ・グリーンツーリズム体験提供者を対象とした「グリーン・ツーリズム安全管理研修会」を東部地方振興事務所農業振興部と共催した。 開催日：R7.2.13	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
無料公衆無線LAN整備事業	デジタルみやぎ推進課	34,443	ICTを活用し、国内外からの集客力を強化するため、本県独自のSSIDによる無料公衆無線LAN「みやぎ FreeWi-Fi」を県有施設に整備し、その重要性を県内に周知しながら、県内民間事業者や他自治体等、本県全域への導入拡大を図る。	・県有施設におけるみやぎ FreeWi-Fi の整備に加え、県内全市町村に、491 か所 908 のアクセスポイント（AP）を設置している。 公共施設：148 か所 336AP 宿泊施設等：31 か所 71AP その他飲食店等：312 か所 501AP	
クルーズ船受入促進事業	港湾課	189	国内外からの誘客を図るため、仙台塩釜港へのクルーズ船の誘致活動を行うとともに、寄港時の受入対応（おもてなし）を行う。	・新型コロナウイルスが収束化したことなどの影響により、外国クルーズ船の寄港数が過去最多タイの7隻となる延べ9隻（仙台区8隻／石巻港区1隻）のクルーズ船が寄港し、寄港時のおもてなしを実施した。 また、石巻港大型客船誘致協議会などと連携し、クルーズ船社やオプションツアーを造成する旅行会社など3者に対し、共同ポートセールスを実施したほか、クルーズ船社の担当者による視察対応を実施し、クルーズ船の県内寄港に向けた取り組みを推進した。	○

(2) 多様化する旅行者の受入環境整備

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
宮城県グリーン製品を活用した公園施設整備事業	観光戦略課	9,603	東北自然歩道「新・奥の細道」の案内看板等が老朽化したため、撤去を行うとともに引き続き必要な個所には新しい案内看板を設置する。	・塩竈市、七ヶ宿町の東北自然歩道における指導標識等の整備を行った。	○
外国人観光客受入環境整備促進事業	観光戦略課	7,969	県内宿泊施設等の利便性・快適性を向上させ、本県を訪れる外国人観光客の満足度向上を図るため、宿泊施設等が行う先進的なデジタル技術の活用や通信環境整備を含めた受入環境整備に資する取組に対して支援をする。	・外国人観光客の満足度向上を図るため、デジタルサイネージの導入や多言語での施設紹介動画作成など、先進的な外国人観光客受入環境整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。(交付決定件数4件)	○
みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業	観光戦略課	165,283	観光客の安全な利用等に配慮した自然公園施設の再整備や広域観光案内板の修正・整備等を進める。	・荒廃した県内の登山道や遊歩道の整備(蔵王町、七ヶ宿町)などを行ったほか、広域観光案内板の盤面更新(蔵王町、川崎町)を行った。	○
みやぎエコ推進バス運行補助事業	観光戦略課	561	観光地の保全を図りながら、エコに関する県民意識の向上を促すため、エコの視点を取り入れ、観光地における循環バス・シャトルバスの運行事業などに係る経費の補助を行う。	・観光地と駐車場等を結ぶシャトルバスの運行経費を助成した。(交付決定件数4件)	○
MICE(国際会議等)の誘致推進事業	観光戦略課	2,059	多くの外国人を一時に招致できるMICE(国際会議等)の誘致を積極的に実施し、高い経済波及効果を生み出すため、専門のスタッフを抱え誘致事業に精通した団体への補助を行う。	・コンベンション開催経費の一部を支援し、開催誘致を促進した。(国内会議:25件、国際会議:11件 合計36件)	
みやぎ観光振興会議運営事業	観光戦略課	2,660	観光関係事業者等と意見交換の場を設定し、観光施策の推進を図る。	・県内7圏域毎に実施する「圏域会議」と、各圏域会議の代表等で構成される「全体会議」を合計32回開催。観光関係者の意見を集約の上、第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況及び今後の観光振興施策の検討を行った。	○
観光地周遊促進事業	観光戦略課	19,942	観光地までの渋滞状況や、飲食店等の観光施設における混雑状況について、AIカメラ等を活用し、可視化するとともに、観光用のデジタルマップにより、観光施設情報と一体的に情報発信する。	・栗駒山、鳴子峡、松島の3地区において、紅葉時期等の観光シーズンに合わせ、駐車場や観光施設にセンサーやAIカメラを設置して混雑状況を把握し、デジタルマップ「ミヤギタビマップ」による情報発信を行った。 デジタルマップ閲覧数:計14,623回	
宮城ワーケーション情報環境整備推進事業	観光戦略課	1,379	宮城におけるワーケーションの一層の普及促進を図るため、県内のワーケーション施設等の情報を一元化したポータルサイトを構築し、効果的な情報発信を行う。	・令和4年度に開設したWEBサイト「Miwork 宮城」において、ワークスペース、宿泊施設及び観光施設等のワーケーション情報を一元化して発信することで、宮城のワーケーションの普及促進及び利用者の利便性向上に努めた。 掲載施設数:139件 総ページビュー数:68,577ビュー	○
小規模宿泊施設普及拡大事業	観光戦略課	12,720	外国人観光客をはじめとする多様な宿泊ニーズに対応するため、小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象にしたセミナーの開催や、小規模宿泊施設等の施設整備等に係る経費を支援する。また、外国人が快適に観光を楽しめる環境整備のため、県内の宿泊施設や観光集客施設が行う公衆無線LAN機器設置や案内表示等の多言語化整備に対して支援を実施する。	・県内の小規模宿泊施設の新規開業者に対し、施設整備に係る経費の一部を補助した。(交付決定件数7件) ・県内の小規模宿泊施設の新規開業者や既存事業者を対象としたセミナーを3回、現地見学会を2回開催した。 ・外国人観光客の利便性を図るため、県内の宿泊施設、観光集客施設等における公衆無線LANの整備、外国語表記の整備等を行う事業者に対し、補助金を交付した。(交付決定件数6件)	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
蛻変プロジェクト	富県宮城推進室・商工金融課・観光戦略課	3,985	地域の担い手自身が地域の課題意識や目指すべき姿を共有するとともに、人流や投資を呼び込むことによる地域経済の循環や持続可能なまちづくりを支援する。	・県内まちづくり関係者とともに先進地視察を行ったほか、モデル地区の商店街団体に事業を委託し、賑わい創出イベントの実施や商店街を中心としたまちづくりの将来ビジョンを作成した。	○
観光のデジタル化促進事業	北部地方振興事務所	44	大崎地域の観光関係団体及び事業者等を対象に、SNS活用による情報発信など、受入側のデジタル化を促進するための研修を開催する。	・圏域内の観光関連事業者等を対象に、施設情報の発信等に効果的なGoogleビジネスプロフィールやSNSなどのビジネスへの活用方法を学ぶセミナーを開催し、検索エンジンやSNSを活用し宿泊施設等の正確な情報を広く発信することで、集客の強化につなげる発信手法について周知を図った。	
地域観光新発見事業	北部地方振興事務所	792	インバウンド旅行者を中心としたターゲットに対し、既存の鳴子温泉郷の観光資源等を掲載した「おくのほそ道散策マップ」及び「おくのほそ道ガイドマップ」を活用して、鳴子温泉郷を軸とした賑わいの創出や積極的な情報発信を実施し、誘客促進等を図る。	・「おくのほそ道散策マップ」に掲載されている観光施設等に関する情報の掘り起こしを行うとともに、現在掲載されている観光施設等の情報を更新した。 ・従来は日本語及び英語を使用し解説していた「おくのほそ道ガイドマップ」を英語及び中国語（繁体字）を使用した解説に改めるとともに、全体的なレイアウトの変更等を行った。	○
インバウンド受入態勢強化事業	東部地方振興事務所	543	飲食店や宿泊施設等の外国人観光客とのコミュニケーション能力向上に向けた支援を行うことにより、石巻地域におけるインバウンド受入態勢を強化する。また、世界に向け石巻地域の復興状況や魅力を発信し、新型コロナウイルス感染症収束後のインバウンドを促進する。	・管内各市町、各観光協会、観光関連事業者の職員を対象に、インバウンド研修を実施した。 研修会 1回、26人 ・地域のガイド又はガイド希望者を対象に外国人観光客案内ガイド向け研修を開催した。 研修会 1回、7人 ・公式Facebook（英語・中国語版）による情報発信を実施した。 英語版 51回、中国語版 51回	○
地域資源を活用したアウトドアアクティビティ観光推進事業	気仙沼地方振興事務所	1,499	トレイル初心者や交通手段の問題で躊躇していた層の新規顧客の開拓を図るとともに、リピーター確保に繋げるため、みちのく潮風トレイルの気仙沼・南三陸セクションを4コース程度の短い区間に分け、トレイルだけでなく、地域探索や地元民との交流などを盛り込んだ日帰りイベント（仙台発着バスツアー）を実施する。	気仙沼・南三陸圏域の観光資源である「みちのく潮風トレイル」と、観光やグルメなどの体験コンテンツを組み合わせた仙台発着の日帰りバスツアーを実施することで、その魅力を広く発信するため、ツアーを仙台発着のバスツアーを計4回開催した。（参加者：計60人） また、みちのく潮風トレイルや自然や文化を体験するアドベンチャーツーリズムなどのガイドを育成するための研修会を1回開催した。（参加者：計19人）	○
ガストロノミーツーリズム推進事業	気仙沼地方振興事務所	1,499	当圏域の気候風土が育んだ食をテーマとして、その習慣・伝統・歴史などを体験する観光コンテンツを造成し、インバウンドをはじめとする観光客の誘いに繋げるもの。	気仙沼・本吉圏域の農水産物を活用して、ベジタリアンやハラルフードを摂る人向けのメニューを開発するとともに、地元飲食店等へのレシピの共有、メニュー等の多言語化により、当圏域へのインバウンド観光客の誘致及びガストロノミーツーリズムの推進を支援した。 開発メニュー：4種類 メニュー発表会参加者：29人（観光関係者、飲食事業者等） 翻訳言語数：3（インドネシア語、英語、中国語（繁体字））	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
無料公衆無線LAN整備事業	デジタルみやぎ推進課	34,443	ICTを活用し、国内外からの集客力を強化するため、本県独自のSSIDによる無料公衆無線LAN「みやぎ FreeWi-Fi」を県有施設に整備し、その重要性を県内に周知しながら、県内民間事業者や他自治体等、本県全域への導入拡大を図る。	・県有施設におけるみやぎ FreeWi-Fi の整備に加え、県内全市町村に、491 か所 908 のアクセスポイント（AP）を設置している。 公共施設 : 148 か所 336AP 宿泊施設等 : 31 か所 71AP その他飲食店等 : 312 か所 501AP	○
クルーズ船受入促進事業	港湾課	189	国内外からの誘客を図るため、仙台塩釜港へのクルーズ船の誘致活動を行うとともに、寄港時の受入対応（おもてなし）を行う。	・新型コロナウイルスが収束化したことなどの影響により、外国クルーズ船の寄港数が過去最多タイの7隻となる延べ9隻（仙台港区8隻／石巻港区1隻）のクルーズ船が寄港し、寄港時のおもてなしを実施した。 また、石巻港大型客船誘致協議会などと連携し、クルーズ船社やオプションルツアーを造成する旅行会社など3者に対し、共同ポートセールスを実施したほか、クルーズ船社の担当者による視察対応を実施し、クルーズ船の県内寄港に向けた取り組みを推進した。	○
「観光力強化」のための交通安全施設整備事業	交通規制課	390,775	外国人旅行者や障害のある方などをはじめとした全ての旅行者が、安全安心かつアクセスしやすい交通環境を整備するため、マイカーやバスのアクセス性向上につながる交通規制システムの整備及び英語を併記する交通規制標識の整備、また、バリアフリー型交通安全施設等の更なる整備や充実を図る。	・交通管制センターの高度化、集中制御機、情報収集装置等の整備を実施したほか、歩行空間のバリアフリー化を図った。	

成長戦略3 合計 25事業 865,549千円

成長戦略 4 戦略的な誘客プロモーション

国内外に向けた戦略的な情報発信やインバウンド誘致の強化を図るとともに、地域資源を活用した観光コンテンツの魅力向上を推進した。また、長期滞在による観光消費の拡大を目指し、東北各県や東北観光推進機構等と連携した広域周遊観光の促進により、東北各県への誘客を強化した。

(1) 旅行者のニーズやターゲットに応じた戦略的プロモーション

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
観光誘客推進事業	観光戦略課	80,091	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	・「みやぎ応援ポケモン」ラプラスを活用した事業のほか、みやぎのお酒を活用した「コト消費」ツアーの造成・プロモーション、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。 「ラプラス+宮城巡り ポケふたスタンプラリー」 エントリーユーザー数 3,967 人 「ラプラス+宮城巡り in 仙臺緑彩館」来場者 16,000 人	○
仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	観光戦略課	12,307	仙台・宮城観光 PR キャラクター「むすび丸」を活用した本県観光の PR 活動を実施し、県内への誘客を図る。	・発地側でのイベント等における本県の観光キャンペーンの告知及び本県観光情報の PR 活動、着地側でのツアー観光客のお出迎え、県内の観光素材発掘、動画撮影、SNS を利用したむすび丸による PR 動画の配信等を実施した。 - むすび丸による観光 PR、おもてなし 120 回 メディア出演等 4 本	○
みやぎ観光デジタルプロモーション事業	観光戦略課	24,736	インバウンド回復のため、デジタルを活用し、旅行者の需要に合わせたプロモーションを実施するとともに、その結果を踏まえたインバウンド施策展開に繋げる。	・東北観光DMP活用・分析業務 - 効果的な観光施策の立案等のため、東北観光推進機構が保有するデータ集積基盤である「東北観光DMP」を活用し、広域での観光動向分析等を実施した。 ・みやぎ観光デジタルプロモーション事業 - 外国人誘客促進のため、インバウンド向け多言語ホームページ「Visit Miyagi」の運営・管理を実施 (R6 年度: 約 33 万 PV) するなど、デジタルを活用した本県の魅力発信を行った。	○
外国人観光客誘致促進事業	観光戦略課	46,192	外国人観光客の誘客回復のため、トップセールスや旅行博出展等を実施するほか、台湾、中国のサポートデスクを活用し、セールスコールや招請事業等を一体的に行う。併せて、SNS による情報発信を各市場に対し一元的に実施する。	・外国人観光客誘客事業 - 仙台市との共同で大台南国際旅行博 (R6. 11. 15～11. 18) に出展し、入場者数は約 14 万人となった。 ・現地誘客促進事業 - 台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、更なる誘客促進を図った。 ・誘客促進情報発信事業 - 本県が管理する海外向け公式 SNS を一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は 546 本。合計フォロワー数は約 30 万人となった。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
宮城オルレ推進事業	観光戦略課	40,032	韓国済州島発祥のトレッキング「オルレ」の宮城県版「宮城オルレ」のコースを県内各地で整備し、魅力あるコンテンツとして磨き上げ、国内外からの誘客促進・交流人口の拡大を図る。	・国内観光に向けには「宮城オルレフェア 2024(R6.9.14～10.19)」を開催し、500人以上が参加した（平成30年10月の宮城オルレオープン以降の延べ利用者数：約7.7万人）。また、新たな宮城オルレオリジナルグッズの販売を開始した。 ・新規コース開設を目指す市町を支援し、蔵王・遠刈田温泉コース及び多賀城コースが、済州オルレから条件付きで認定を得た。 ・インバウンド向けには、済州オルレウォーキングフェスティバルに本県ブースを出展し、パンフレットを配布するなど宮城オルレのPRを行った。また、韓国のトレッキング商品を扱う旅行会社6社を県単独で招請し、宮城オルレを組み込んだツアー商品の造成につなげた。	○
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光戦略課	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	・国内観光向けには、InstagramフォトコンテストやJAXA 角田宇宙センターでの合同ブース出展等を行った。 ・海外観光向けには、WEBメディアを活用した情報発信を行った。	○
国際観光モデル地区観光施設整備事業	観光戦略課	2,263	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北3県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	・タイから栃木及び南東北への誘客に向けたプロモーション事業 ＜タイ旅行博出展事業＞ 現地旅行博にブース出展し一般来場者向けにPRしたほか、現地旅行会社を対象とした商談会を実施した。 ブース来場者数 18,786人 ＜タイ旅行会社招請事業＞ 高付加価値の団体ツアーを中心に造成しているタイ現地旅行会社4社を招請し、各県の冬の魅力と食文化を訴求した。 造成ツアー9本 造成ツアー送客数220人	○
多賀城創建1300周年記念イベント支援事業	観光戦略課	77,167	多賀城が令和6年に創建1300年を迎えることから、多賀城をはじめとする本県の魅力を伝えるため、多賀城創建1300周年記念事業実行委員会や多賀城市が実施する記念事業と相乗的な事業を実施するもの。	11月下旬から12月上旬の毎週末、多賀城創建1300周年記念イベントとして、多賀城政庁跡における正殿の3Dホログラム映像技術による復元や、南大路や南門のライトアップ、グルメイベントや多賀城出身ヴァイオリニストの招聘した演奏会等を実施した。計6日間の開催で5万人を超える来場につながった。	
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化	観光戦略課	18,500	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北各県や東北観光推進機構等と連携し、東北が一体となった観光プロモーションの展開などの取組を行う。	・東北観光推進機構において、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ東北・新潟域内の観光需要の早期回復を目的に、関係団体と連携したプロモーション等を実施した。 - 東北の新しい旅行スタイル創出プロジェクト「Base!TOHOKU」の実施 - 台湾で東北PRイベント「日本東北遊楽日」を実施	○
海外交流基盤再構築事業	国際政策課	2,340	震災により大幅に減少した外国人観光客等の誘致を図るため、訪問団等を積極的に受け入れる。	・海外からの賓客等の受入48件	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
海外交流基盤強化事業	国際政策課	5,379	中国吉林省、米国デラウェア州等海外自治体等との関係を強化するため、訪問団の派遣や受入れを行い、本県のPR等を効果的に実施する。	・中国吉林省については、令和6年11月に県訪問団を派遣し、今後の交流計画について協議したほか、「中国国際友好都市大会」に出席し、吉林省の推薦により日中間でモデルとなる友好交流を実施した自治体を表彰する「対中友好パートナー賞」を受賞した。 ・台湾については、令和6年12月に松島町・松島第五小と台湾・双冬小のオンライン交流を実施し、両校生徒による歌や踊りの発表、本県や台湾の紹介を通じて青少年交流を図った。 ・韓国については、駐仙台韓国総領事館と「キムチフェスティバル」を開催したほか、令和6年8月在日本韓国大使館主催の被災地の高校生を対象とした招請事業を通じ、草の根レベルでの交流促進を図った。 ・米国デラウェア州については、令和6年5月に県内高校進路指導教諭等によるデラウェア大学の視察を実施したほか、令和6年6月デラウェア大学訪問団が来県し、県内高校生及び県内高校進路指導教諭等を対象にデラウェア大学説明会を実施し、県内高校とデラウェア州内大学との関係強化などにつなげた。また、令和6年10月にデラウェア州訪問団を受入れ、中小企業及びスタートアップ企業の支援等について意見交換したほか、県内企業等を訪問し、交流基盤の強化を図った。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,232	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。 (1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR (2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等 (3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業 (4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。 ①食のブランド化事業 ・3県（山形、福島）連携マルシェ（11/3）の実施（来場者数約5,875人） ・管内道の駅と連携したスイーツとみやぎ蔵王三十六景地域の逸品マルシェを年3回開催（4、5、10月） ・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨7品目、推奨品目数88品目）、リーフレットやシール、POPによる販売促進の実施 ・県庁広報展示室での展示と連動した、地域の逸品販売会の開催（12月16～18日開催 売上約115万円） ②広域観光・食と物産情報の発信強化事業 ・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、開催し、キャンペーン終了後のフォロワー数がXで約1.6万人に増加 ・管内のひなまつり情報を、「ひなの郷せんなん」として一体的に広報するポスター及びリーフレットの作成とともに、同時期に開催した「仙南冬のスタンプラリー」企画と連動した広報により、閑散期となる冬季の広域周遊につなげた。 ③みやぎ蔵王温泉郷振興事業 ・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を活用したInstagramフォローキャンペーンを2回開催し、フォロワー数が1,682人に伸びた。 ④「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計4回開催	○
仙南アドベンチャーツーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	984	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーツーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信として、当所ウェブサイト「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」のページを作成 ・紙媒体「仙南アドベンチャーマップ」を10,000部作成し、仙台市内の子育て施設等を中心に237箇所に配布することで、仙南圏域が子育てに適した地域であるということをアピール ・「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」に誘導するためのウェブ広告3種を実施	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	1,016	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1) 特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」(夏) (2) 独自企画 秋冬周遊企画 (3) 「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業	・仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。 ① 夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2024」(R6.7～9月)を実施。応募総数 1,201 通 ② 大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業 ・R6.11.17 SennanCyclingDay での参加者への補給食等の提供や観光 PR の実施 ③ みやぎ仙南応援大使第 1 号「新井ひとみ氏」を活用した当所事業の PR	○
SNS 等を活用した積極的な情報発信事業	大河原地方振興事務所	— (非予算)	令和 3 年度に開設した公式 X (旧 Twitter)、令和 4 年度に開設した公式 Instagram をはじめ、ブログや Facebook 等の SNS を最大限活用し、仙南圏域の観光や食の魅力を発信する。	・管内の魅力ある観光や食をタイムリーに発信するため、ウェブサイトや SNS により情報発信を実施した。 令和 6 年度は X (旧 Twitter) 約 590 件、Instagram は 434 件、事務所ウェブサイト約 50 件、ブログは 33 件の記事を投稿した。	○
3 県 (宮城・山形・福島) 連携 広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	近年、東北中央道の開通等により、南東北 3 県 (宮城仙南・山形置賜・福島県北) の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力を多くの方に知ってもらい、3 県の相互交流を促進するため、各地域の特産であるフルーツや食材を使用したスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。	・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3 県の計 32 店舗、25 観光スポットを周遊して、各地域のスイーツ店を 1 店舗以上及び観光スポットを 1 か所以上訪問することで応募可能となる「至福のスイーツトリップスタンプラリー」を 8 月 1 日から 11 月 30 日まで開催した。 ・総参加者数 1,649 人、応募総数 181 件 総スタンプ取得数 5,299 件、応募には至らなかったが、総閲覧者数 4,752 件の閲覧があった。	○
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	990	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1 年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を超えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の講座を 2 回開催 あわせて、大河原産業高校企画ビジネス科 2 年生を対象に、連続講座 6 回と実務者との合同講座 1 回を開催した。 実務者向けステップアップセミナー：補助金申請に関するセミナー延べ 44 人参加 高校生向けセミナー：連続講座 6 回、合同講座 1 回 延べ 307 人参加	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台圏域内観光周遊促進・満足度向上事業～仙台圏域ぐるっと周って満足旅～	仙台地方振興事務所	2,402	仙台圏域が一体となった観光周遊戦略を展開することで、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ観光需要の回復と観光産業を中心とした地域活性化を図る。	①テーマ性をもった周遊ラリー企画と ②食と観光を連携させた取り組みとして、管内の飲食店や直売所等のスタンプスポット（70店舗）を巡るデジタルスタンプラリー「仙台地域 めっちゃ！うまいっちゃ！スタンプラリー」を実施した。参加者：2,189名 ③宮城県における観光の動向や持続可能な観光地づくりの視点を学ぶことを目的に、株式会社リクルート（じやらんリサーチセンター）、リトル台湾 in 東北、金蛇水神社より講師を招き、令和7年2月14日に研修会を開催した。参加者：市町村観光担当者、観光関係事業者・宿泊事業者等48名	○
仙台地域体験型コンテンツ魅力発信事業	仙台地方振興事務所	1,320	管内の地域資源を活かした魅力的な体験型コンテンツを SNS を通じて県内外に広く発信するもの。	(1)仙台・松島地域の旬なおすすめ観光スポットや飲食店等を、知名度が高いキャラクターを起用し、Instagramの共同投稿により情報発信を行った。また、SNS の閲覧数・認識性向上のため、SNS 広告を活用し効果的な広報を実施する。 ＜紹介スポット＞24箇所 ＜Instagram投稿内容＞リール投稿：6本、フィード投稿：6本 ＜Instagram投稿閲覧数＞リール投稿再生回数：計48,602回、フィード投稿閲覧数：計23,428回 ＜Instagram広告＞表示回数：42,315回、クリック数1,495回 (2)Instagramに、仙台湾内観光ガイドブック「#せんだい WOW!な旅」のホームページに誘導する Web 広告を3月12日～26日の期間で掲載。 ＜広告＞広告表示回数：203,738回、クリック数4,190回	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会事業	仙台地方振興事務所	261	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会の事務局として、関係市町村等と連携・協働しながら、圏域観光の推進を図る。	①管内市町村の特色 PR 事業として、9 月 21 日、22 日に仙台南の杜水族館において、観光誘客キャラバン及び管内事業者等による特産品販売会を実施した。 参加市町村数 13 市町村 特産品販売会出店者数 10 市町から 12 店舗 ②部会員である JR 東日本東北本部が主催した「鉄道の日」イベントや四季島のお見送りへの参加。 ③地場産業振興協議会事業との連携 宮城黒川地域地場産業振興協議会が開催した物産展に観光 PR ブースを設置しパンフレットの配布等を行った。 ④Instagram を活用しモデルコースやテーマに沿った内容の観光・食の情報発信を市町村の枠を越えて共同投稿により行った。 配信記事数 13 件 平均リーチ数 1,820 件	○
SNS による観光情報発信事業	北部地方振興事務所	— (非予算)	国内・海外からの誘客促進を図るため大崎地域等の観光地の魅力を SNS (Youtube、Facebook、Instagram) を活用し情報発信する。	・Instagram「東北のへそ」及び「よしたみやぎ」、Facebook「アイラブオオサキ」を活用し情報発信を行った。	
バーチャルトリップサイトによる観光情報発信事業	北部地方振興事務所	— (非予算)	海外からの誘客促進を図るため、大崎管内の観光地を 360° 映像等で紹介するバーチャルトリップサイト「アイラブオオサキ」で国内外に発信する。	・バーチャルトリップサイト「アイラブオオサキ」を 4 カ国語 (英語・中国語 (繁体字)・中国語 (簡体字)・韓国語) で大崎地域の魅力を発信した。	
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会による情報発信事業	東部地方振興事務所・気仙沼地方振興事務所	744	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会三陸地域部会の事務局として、関係市町や観光関係団体等と連携しながら観光資源の広報宣伝等を実施し、石巻・気仙沼地域への交流人口の拡大を図るとともに、観光を活かした地域振興を推進する。	・三陸地域の周遊促進を目的として「みやぎ三陸エリアドライブマップ」を作成し、道の駅や観光施設等に配布した。 発行部数 3 万部 ・地域の観光資源を県内旅行事業者に直接訴求し、魅力的な旅行商品の造成に繋げるための商談会に参加し、三陸地域の観光 PR を実施した。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
誘客促進事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	794	公式 SNS「ほっとめーしょん」の Instagram アカウントにおいて、登米市の魅力あるコンテンツを紹介してもらふフォトコンテストを実施するとともに、フォトコンテストの投稿写真を活用した、仙台駅構内のデジタルサイネージでの広告掲載、登米地域内の観光スポット及び飲食店等の情報を集約したデジタルマップの作成を行い、情報発信の強化を図る。	①登米地域の観光 PR 広告の掲出 R5 年度開催したフォトコンテスト受賞作品を主に使用した観光 PR 広告を作成し、駅に掲出した。 仙台駅：掲出期間 R6. 8. 5～8. 18 盛岡駅：掲出期間 R7. 2. 24～3. 9 ②SNS、デジタルマップ等を活用した登米圏域の PR 当所の公式 SNS「ほっとめーしょん」を活用し、登米圏域の PR を実施するとともに、事務所及び登米市で実施するイベントの周知を行う等、情報発信を行った。（投稿件数：76 件） デジタル版「登米エリアドライブマップ」を作成し、運用開始した。 ③仙台・宮城観光キャンペーン及び岩手・宮城県際地域との連携による誘客促進 県北地域部会の公式 Instagram「よしきたみやぎ」において、県北地域の魅力発信を行った。	○
気仙沼地方振興事務所公式 Instagram による情報発信事業	気仙沼地方振興事務所	32	公式 Instagram を開設し、圏域の観光資源の魅力を効果的に情報発信する。	・圏域内観光資源の効果的な情報発信のため、公式 Instagram を運営した。 投稿数 126 件（総数 750） フォロワー増加数 491（総数 2,747）	○
宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」の誘客促進事業	気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」への誘客促進を図るため、宮城県観光連盟や地元観光協会等が実施するイベントやプロモーション活動を支援する。	・「宮城オルレフェア 2024」のコースイベント（10/12）開催にあたり、気仙沼市や地元観光協会とともにイベント運営業務に従事し、プロモーション活動を支援した。	○
デジタルスタンプラリー事業	気仙沼地方振興事務所	810	岩手県沿岸南部、宮城県沿岸北部を縦貫する B R T（大船渡線、気仙沼線）沿線への誘客を図ることにより、宮城、岩手県際地域における周遊性・対流性を高め、交流人口、観光消費の拡大と地域交通の利用促進につなげるため、B R T の駅や近隣の観光地等を巡るデジタルスタンプラリーを実施する。	・宮城県（気仙沼市・南三陸町）、岩手県（大船渡市、陸前高田市）の B R T 駅や周辺観光スポットをラリーポイントとして QR コードを設置し、訪れた人に読み込んでもらうことでスタンプを獲得する形式のデジタルスタンプラリーを実施し、獲得したスタンプ数に応じて、宮城県沿岸北部、岩手県沿岸南部地域の産品や JR 等の関連商品を商品として贈呈した。 実施期間：令和 6 年 7 月 20 日～令和 6 年 10 月 31 日まで 参加数：364 人 スタンプ押印数：1,822 個	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
地域資源を活用したアウトドアアクティビティ観光推進事業	気仙沼地方振興事務所	1,499	トレイル初心者や交通手段の問題で躊躇していた層の新規顧客の開拓を図るとともに、リピーター確保に繋げるため、みちのく潮風トレイルの気仙沼・南三陸セクションを4コース程度の短い区間に分け、トレイルだけでなく、地域探索や地元民との交流などを盛り込んだ日帰りイベント（仙台発着バスツアー）を実施する。	気仙沼・南三陸圏域の観光資源である「みちのく潮風トレイル」と、観光やグルメなどの体験コンテンツを組み合わせた仙台発着の日帰りバスツアーを実施することで、その魅力を広く発信するため、ツアーを仙台発着のバスツアーを計4回開催した。（参加者：計60人） また、みちのく潮風トレイルや自然や文化を体験するアドベンチャーツーリズムなどのガイドを育成するための研修会を1回開催した。（参加者：計19人）	○
インターネット広報事業	広報課	3,943	ウェブサイト、Facebook、メールマガジン等の特性を活かし、県政ニュースや各種イベント、宮城の魅力、観光情報等を発信する。	・ウェブサイトは、県政ニュース等を掲載するニュースクリップを年間77件掲載した。また、トップページ上段の大バナー及びページ中段の事業PRバナーにおいて年間22件の県政情報を掲載した。 ・Facebookは、年間392件投稿し、フォロワー数は278人増の14,071人となった。 ・メルマガ・みやぎは、年間48回配信し、年度末の登録者数は6,008人であった。	○
宮城県戦略的の魅力発信事業	広報課	22,466	県内外に向け、宮城の様々な魅力を総合・横断的に広報する。	・全国放送網のテレビを活用したパブリシティにより、宮城の様々な魅力を発信し、8企画の露出を獲得した。また、Instagramのアカウント名をリニューアルし、プレゼントキャンペーンを実施することで、フォロワーを獲得し、若年層を中心に幅広い世代に訴求を図った。	○
交流人口拡大による被災地活性化事業	復興支援・伝承課	5,891	東北観光推進機構と連携し、マーケティング等を行い、東北DMPを活用し誘客を見据えた現状分析と今後の被災地に交流人口を増やしていくための戦略の構築、既存ツールに震災伝承を切り口としたコンテンツの追加に加え、関係者のモニターツアーの実施や満足度調査の実施等に取り組むことで磨き上げを行い、継続的に人を呼び込むことができる仕組みの構築を目指し、その後のプロモーションにつなげていくもの。	・東北DMPやCRMシステムを活用したマーケティングとモデルコースの造成（台湾向け3コース） ・モニターツアーとその後のアンケート調査による磨き上げの実施 ・東北観光推進機構ウェブサイトにおいて特設サイトを作成。 また、パンフレットを作成し、台湾で行われる大型イベント等でPRを行った。 ・令和5年度に造成した国内向けモデルコースのプロモーションとしてweb広告及びスタンプラリーを実施した。	○
震災伝承教育旅行受け入れ体制強化事業	復興支援・伝承課	2,761	教育旅行や企業研修等、県外からの誘客受け入れ態勢を構築するため、県内伝承団体のPRツールの作成やデータベース化等を行うもの。	・県内伝承団体等へのヒアリングを実施し、教育旅行等のニーズを踏まえた受入先の磨き上げを行うとともに、団体毎の実施プログラムの特色や対象等をまとめたタリフ表を作成したほか、教育旅行等誘致プロモーションでの発信を行った。 今年度実施地域・ヒアリング実施箇所数：県南地区8箇所 プロモーション実施数：18回	○
首都圏向け情報発信事業	東京事務所	— (非予算)	主に首都圏をターゲットに観光地などに関する情報を発信するとともに、首都圏開催の本県関連イベント等の情報を適宜発信する。	・首都圏開催の各種イベントやメディア向け記者会見、企業訪問等の場で、積極的に観光情報の発信を行った。また、東京事務所ホームページと各SNSを活用し、宮城県内及び首都圏で開催される本県関連イベント等についてタイムリーに情報発信を行った。 Facebook及びInstagramでの情報発信113件	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台空港地域連携・活性化事業	空港臨空地域課	23,087	若者を対象とした仙台空港を発着する航空券取得費用の一部を助成するキャンペーン及び全世代を対象としたパスポート取得費用の一部を助成するキャンペーンを実施し、アウトバウンド促進など仙台空港の利用拡大を図る。	・若者を対象とした航空券取得費用の一部助成、全世代を対象としたパスポート取得費用の一部助成及び仙台空港の路線認知度を高めるプロモーションを実施し、アウトバウンド促進など仙台空港の利用拡大及び旅行機運の醸成を図った。 ・若者(30歳未満)を対象とした航空券取得費用の一部助成 助成額:国内線 費用負担1万円以上で5千円助成 国際線 費用負担5万円以上で1万円助成 香港線 費用負担5万円以上で1万円助成 助成件数:国内線 558名 国際線 377名 香港線 101名 ・全世代を対象としたパスポート取得費用の一部助成 助成額:10,000円(12歳未満は6,000円) 助成件数:377件	
日本遺産魅力発信推進事業	文化財課	2,977	日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」に認定されたストーリーにちなんだ文化遺産を活かし、観光振興と地域活性化を図る。	・紹介パネル展8回 ・小中学生向けイベント4回、参加173人 ・講座・出前授業等の対応14件(参加者685名) ・公式SNSによる情報発信(Facebook・Instagram 合計フォロワー1,086人) ・文化財アクリルスタンド販売730個 ・特別名勝松島ハンドブック販売24冊 ・文化財カード配布による周遊促進(文化財の観覧、文化財関連イベント参加で配布約700枚) ・日本遺産ガイド養成講座 2回、参加45人 ・松島ガイドプログラム「景観と信仰」1回、参加9人 ・松島五大堂の説明板改修による周遊促進 ・東北歴史博物館に日本遺産ガイドダンスコーナーの設置	○

(2) 東北各県や東北観光推進機構等と一体となった広域周遊観光の促進

(単位:千円)

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
観光誘客推進事業	観光戦略課	80,091	県内市町村のほか、関係団体等と連携し、本県における観光資源を磨き上げ、魅力の向上を図るとともに誘客活動の実施により、幅広い層の観光客の確保を図る。	・「みやぎ応援ポケモン」ラプラスを活用した事業のほか、みやぎのお酒を活用した「コト消費」ツアーの造成・プロモーション、SNSによる観光誘客情報発信等を実施した。 「ラプラス+宮城巡り ポケふたスタンプラリー」 エントリーユーザー数 3,967 人 「ラプラス+宮城巡り in 仙臺緑彩館」来場者 16,000 人	○
外国人観光客誘致促進事業	観光戦略課	46,192	外国人観光客の誘客回復のため、トップセールスや旅行博出展等を実施するほか、台湾、中国のサポートデスクを活用し、セールスコールや招請事業等を一体的に行う。併せて、SNSによる情報発信を各市場に対し一元的に実施する。	・外国人観光客誘客事業 仙台市との共同で大台南国際旅行博(R6.11.15～11.18)に出展し、入場者数は約14万人となった。 ・現地誘客促進事業 台湾の中国の現地サポートデスク及び大連事務所による現地旅行会社へのセールスコール、現地旅行会社や航空会社向けの観光セミナーや商談会を実施したほか、旅行商品造成に向けた台湾現地旅行会社の招請を実施するなど、更なる誘客促進を図った。 ・誘客促進情報発信事業 本県が管理する海外向け公式SNSを一元管理し効果的に活用した観光情報の継続的な発信を実施した。各市場の合計投稿数は546本。合計フォロワー数は約30万人となった。	○
山形県と連携した広域観光の推進事業	観光戦略課	700	大都市圏や海外からの誘客を図るため、山形県と連携した観光プロモーションの展開などの取組を行う。	・国内観光向けには、InstagramフォトコンテストやJAXA角田宇宙センターでの合同ブース出展等を行った。 ・海外観光向けには、WEBメディアを活用した情報発信を行った。	○
国際観光モデル地区観光施設整備事業	観光戦略課	2,263	外国人観光客の誘客及び受入環境整備を図るため、栃木県、南東北3県及び県内市町村と連携し、観光プロモーションや看板整備などの取組を行う。	・タイから栃木及び南東北への誘客に向けたプロモーション事業 ＜タイ旅行博出展事業＞ 現地旅行博にブース出展し一般来場者向けにPRしたほか、現地旅行会社を対象とした商談会を実施した。 ブース来場者数 18,786 人 ＜タイ旅行会社招請事業＞ 高付加価値の団体ツアーを中心に造成しているタイ現地旅行会社4社を招請し、各県の冬の魅力と食文化を訴求した。造成ツアー9本 造成ツアー送客数 220 人	○
ツーウェイツーリズム推進事業	観光戦略課	5,000	若年層の海外との交流機会を創出して国際相互理解力を向上させるとともに、海外との交流拡大を通じて、空港路線の維持・拡大を図り、インバウンドの更なる誘客拡大につなげるため、県内の中学校、高等学校等が実施する海外教育旅行の経費を支援する。	海外教育旅行を実施した県内学校(17校・20件)に対し、海外教育旅行の実施に係る経費支援を実施した。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化	観光戦略課	18,500	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北各県や東北観光推進機構等と連携し、東北が一体となった観光プロモーションの展開などの取組を行う。	・東北観光推進機構において、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ東北・新潟域内の観光需要の早期回復を目的に、関係団体と連携したプロモーション等を実施した。 東北の新しい旅行スタイル創出プロジェクト「Base!TOHOKU」の実施 台湾で東北PRイベント「日本東北遊楽日」を実施	○
アンバサダーサミット開催事業	観光戦略課	30,000	本県におけるイン・アウトバウンドの拡大や外国人材の確保、外資企業の投資獲得等に向け、G7等の駐日大使などを招いた「アンバサダーサミット」を開催し、宮城・東北が誇る観光資源等を活用したプロモーション、投資セミナーやビジネスマッチングを実施する。	1月23日～25日の3日間にわたり、11カ国・地域の駐日大使及び代表等を迎え国際的な人的交流及び経済協力の強化を目的として、「みやぎアンバサダーサミット」を開催した。参加した国・地域のうちベトナム駐日大使館とは、今後の関係強化のため覚書を締結した。	
「宮城・山形・福島」南東北三県観光展開催事業	大阪事務所	107	南東北三県が連携して、地域の魅力を周知し、一層の誘客促進を図るため、大阪市内において観光PRを行う。	・南東北三県の大阪事務所が連携し、以下のとおり観光PRを実施した。 ディアモール大阪ディーズスクエアでの観光物産展 ＜実施日＞令和6年1月26日（日） ＜場所＞ディアモール大阪ディーズスクエア ＜内容＞観光案内、ポスター・パンフレットの掲示、県産品の販売、ノベルティ配布	
東北六県観光展開催事業	大阪事務所	150	東北六県が連携し、東北の魅力等を積極的かつ集中的に提供することにより、一層の観光誘客の促進を図るため、観光案内、ポスター・パンフレットの掲示、民芸品等の展示、DVD放映、ゆるキャラによるPR及び東北旅行・特産品プレゼントなどを行う。	・東北六県の大阪事務所が連携し、以下のとおり観光PRを実施した。 ディアモールディーズスクエアでの観光物産展 ＜実施日＞令和6年11月19日（火） ＜場所＞ディアモール大阪ディーズスクエア ＜内容＞観光案内、ポスター・パンフレットの掲示、クイズラリー・特産品プレゼント	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
みやぎ蔵王ブランド推進事業	大河原地方振興事務所	1,232	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的とした産業振興と広域観光推進を図るため、「みやぎ蔵王三十六景」「みやぎ蔵王温泉郷」等を活用した観光振興策を、管内市町・関係機関・DMO・周辺観光圏との連携により展開する。 (1) 食のブランド化事業 郷土料理やスイーツ、地域の逸品等の販売促進、PR (2) 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 SNS キャンペーンや管内ひな祭りイベントの一体的PR等 (3) みやぎ蔵王温泉郷振興事業 (4) みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議	仙南地域の「食と観光のブランド化」を目的として「みやぎ蔵王」を活用した産業振興と広域観光の推進に関する各種事業を展開した。 ① 食のブランド化事業 ・3県（山形、福島）連携マルシェ（11/3）の実施（来場者数約5,875人） ・管内道の駅と連携したスイーツとみやぎ蔵王三十六景地域の逸品マルシェを年3回開催（4、5、10月） ・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」の推奨（新規推奨7品目、推奨品目数88品目）、リーフレットやシール、POPによる販売促進の実施 ・県庁広報展示室での展示と連動した、地域の逸品販売会の開催（12月16～18日開催 売上約115万円） ② 広域観光・食と物産情報の発信強化事業 ・仙南地域の魅力をタイムリーに発信するSNSの認知度向上のため、X（旧Twitter）キャンペーンを2回、開催し、キャンペーン終了後のフォロワー数がXで約1.6万人に増加 ・管内のひなまつり情報を、「ひなの郷せんなん」として一体的に広報するポスター及びリーフレットの作成とともに、同時期に開催した「仙南冬のスタンプラリー」企画と連動した広報により、閑散期となる冬季の広域周遊につなげた。 ③ みやぎ蔵王温泉郷振興事業 ・仙南地域の温泉の魅力を紹介する動画シリーズ「みやぎ仙南湯めぐりにゃんこけしの旅」を活用したInstagramフォローキャンペーンを2回開催し、フォロワー数が1,682人に伸びた。 ④ 「みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議」計4回開催	○
仙南アドベンチャーツーリズム推進事業	大河原地方振興事務所	984	子ども達の健全育成推進のため、仙南地域の豊かな自然環境を活用したアドベンチャーツーリズム造成を行い、子ども向け自然体験プログラムを都市部の子育て世帯に向けて分かりやすく情報発信する。	・子育て世代の仙南地域への定着や流入促進、関係人口の増加を目的に、仙南地域の自然環境を活用した既存のアクティビティ及び新たな資源発掘によるアドベンチャープログラムの造成と子育て世代に向けた情報発信として、当所ウェブサイト「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」のページを作成 ・紙媒体「仙南アドベンチャーマップ」を10,000部作成し、仙台市内の子育て施設等を中心に237箇所に配布することで、仙南圏域が子育てに適した地域であるということをアピール ・「宮城県仙南地域のアクティビティコンテンツ」に誘導するためのウェブ広告3種を実施	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会事業	大河原地方振興事務所	1,016	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県南地域部会の取組として、以下の事業を行う。 (1)特別企画「ご当地キャラクターを探せ！」（夏） (2)独自企画 秋冬周遊企画 (3)「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業	・仙南地域の特性を活かした観光施策に主体的に取り組むことで地域の活性化に資することを目的に、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会、管内市町と連携のもと、以下の事業を実施した。 ①夏休み時期の親子を主なターゲットとして、管内の市町を「ナゾ」を解きながら周遊する、特別企画「県南ご当地キャラクターを探せ！2024」（R6.7～9月）を実施。応募総数 1,201 通 ②大河原町が事務局となる「みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議」との連携事業 ・R6.11.17 SennanCyclingDay での参加者への補給食等の提供や観光 PR の実施 ③みやぎ仙南応援大使第 1 号「新井ひとみ氏」を活用した当所事業の PR	○
3 県（宮城・山形・福島）連携広域周遊促進事業	大河原地方振興事務所	1,000	近年、東北中央道の開通等により、南東北 3 県（宮城仙南・山形置賜・福島県北）の交通アクセスが改善され、これまで以上に県境を越えた広域周遊の利便性が高まっていることから、各地域の魅力を多くの方知ってもらい、3 県の相互交流を促進するため、各地域の特産であるフルーツや食材を使用したスイーツを切り口とした周遊企画を実施する。	・宮城県仙南地域、山形県置賜地域及び福島県県北地域の魅力を生かし、相互交流を促進することを目的に、3 県の計 32 店舗、25 観光スポットを周遊して、各地域のスイーツ店を 1 店舗以上及び観光スポットを 1 か所以上訪問することで応募可能となる「至福のスイーツトリップスタンプラリー」を 8 月 1 日から 11 月 30 日まで開催した。 ・総参加者数 1,649 人、応募総数 181 件 総スタンプ取得数 5,299 件、応募には至らなかったが、総閲覧者数 4,752 件の閲覧があった。	○
仙南地域観光人材育成事業	大河原地方振興事務所	990	仙南地域の観光を担う人材育成を目的として、地域の観光に関わる官・民、業種を超えた実務者層を中心に、1 年目のステップアップした内容の講座を開催するとともに、地元高校と連携し、教育現場における子ども達の地元愛醸成や次世代の観光人材を育成する。	・仙南地域における観光振興に関する知見の習得、多業種間の交流の機会を設け、仙南地域の観光を担う人材を育成することを目的に、地域の観光に携わる官・民、業種を超えた実務者層を対象に、セミナーとワークショップ形式の講座を 2 回開催あわせて、大河原産業高校企画ビジネス科 2 年生を対象に、連続講座 6 回と実務者との合同講座 1 回を開催した。 実務者向けステップアップセミナー：補助金申請に関するセミナー延べ 44 人参加 高校生向けセミナー：連続講座 6 回、合同講座 1 回 延べ 307 人参加	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙山交流連携促進事業	仙台地方振興事務所	503	文化面・交通面での結びつきが強い宮城県仙台地域及び山形県村山地域合同の特産品販売会等を支援するとともに、両地域の魅力を発信することで、両地域の相互交流をさらに深める。	①両地域間の周遊促進を目的とし、仙台・黒川地域、山形・北村山地域の計10市町村を対象とした「仙山交流 麵活スタンプラリー」を7月13日から3ヶ月間開催した。参加者：1,910名 ②平成14年度から開催している仙山交流連携促進会議を10月16日に、道の駅寒河江「チェリーランドさがえ」（寒河江市）で実施した。「どんな分野の協力隊活動にも直結する『関係人口』のつくりかた～地域おこし協力隊&行政職員向けワークショップ～」が行われた。 ※事務局を山形県と宮城県で持ち回しており、令和6年度は山形県が担当した。 会議参加者：仙台・村山管内市町村職員等52名 ③9月25日、26日に勾当台公園市民広場（仙台市）で、両地域の産物を一堂に集め、生産者自ら直接販売を行う、「仙山交流味祭 in せんだい」を開催した。（主催は民間団体。当所は広報等の側面的支援を実施。） 25日：18店舗出店 300名来場 26日：17店舗出店 500名来場	○
最上・雄勝・大崎三県連携交流事業	北部地方振興事務所	746	大崎地域と山形県最上地域・秋田県雄勝地域との県境を越えた広域的な取組として、三地域合同の観光PRイベント等を開催する。	・Instagram「東北のへそ」を活用して、「東北のへそ」フォトコンテストを開催し、東北のへそ地域の魅力発信と誘客を促進し、交流人口の拡大を図った。 ・東北のへそ三県交流まつりを勾当台公園市民広場で開催し、東北のへそ地域の観光・物産・郷土文化等の魅力ある地域資源の情報を発信し、誘客促進を図った。 ・石巻市、気仙沼市の旅行エージェント等を訪問し、東北のへそ地域への誘客を図った。	
仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県北地域部会事業	北部地方振興事務所	1040	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会県北地域部会の事務局として、関係市町や観光関係団体等と連携しながら、地域あるいは地域を越えて連携した観光施策を主体的に実現させ、地域の活性化に資するための継続した観光の仕組みづくりを行う。	・Instagram「よしきたみやぎ」を活用した情報発信を実施した。 ・誘客促進のため旅行情報誌「旅の手帖」に県北地域の観光地を紹介する記事を掲載した。 ・県北地域部会の構成市町・地域事務所の職員が山形県天童市内のDMCを訪問し、研修を実施した。	
岩手・宮城県際広域観光推進研究会による情報発信事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所・東部地方振興事務所登米地域事務所・気仙沼地方振興事務所	— (非予算)	岩手県と宮城県の県際地域における広域観光の推進を図るため、「岩手・宮城県際広域観光推進研究会」に参画し、観光案内所等におけるパンフレットの相互配架、広域パンフレットの作成等を行う。	・意見交換や現地視察等を行う研究会を2回開催した。 ・当該地域の観光地情報等を協力して発信した。	○
栗駒山麓広域連携事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	— (非予算)	栗駒山を共通の観光資源とする岩手県、秋田県と連携し、栗駒山麓の登山マップや広域観光パンフレットの作成、配架等を行う。	・栗駒山トレッキングMAPや、各県事務所のイベントに関するポスター・パンフレットを相互に配架した。	○

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
デジタルスタンプラリー事業	気仙沼地方振興事務所	810	岩手県沿岸南部、宮城県沿岸北部を縦貫するBRT（大船渡線、気仙沼線）沿線への誘客を図ることにより、宮城、岩手県際地域における周遊性・対流性を高め、交流人口、観光消費の拡大と地域交通の利用促進につなげるため、BRTの駅や近隣の観光地等を巡るデジタルスタンプラリーを実施する。	・宮城県（気仙沼市・南三陸町）、岩手県（大船渡市、陸前高田市）のBRT駅や周辺観光スポットをラリーポイントとしてQRコードを設置し、訪れた人に読み込んでもらうことでスタンプを獲得する形式のデジタルスタンプラリーを実施し、獲得したスタンプ数に応じて、宮城県沿岸北部、岩手県沿岸南部地域の産品やJR等の関連商品を商品として贈呈した。 実施期間：令和6年7月20日～令和6年10月31日まで 参加数：364人 スタンプ押印数：1,822個	○
交流人口拡大による被災地活性化事業	復興支援・伝承課	5,891	東北観光推進機構と連携し、マーケティング等を行い、東北DMPを活用し誘客を見据えた現状分析と今後の被災地に交流人口を増やしていくための戦略の構築、既存ツールに震災伝承を切り口としたコンテンツの追加に加え、関係者のモニターツアーの実施や満足度調査の実施等に取り組むことで磨き上げを行い、継続的に人を呼び込むことができる仕組みの構築を目指し、その後のプロモーションにつなげていくもの。	・東北DMPやCRMシステムを活用したマーケティングとモデルコースの造成（台湾向け3コース） ・モニターツアーとその後のアンケート調査による磨き上げの実施 ・東北観光推進機構ウェブサイトにおいて特設サイトを作成。 また、パンフレットを作成し、台湾で行われる大型イベント等でPRを行った。 ・令和5年度に造成した国内向けモデルコースのプロモーションとしてweb広告及びスタンプラリーを実施した。	○
震災伝承教育旅行受け入れ体制強化事業	復興支援・伝承課	2,761	教育旅行や企業研修等、県外からの誘客受け入れ態勢を構築するため、県内伝承団体のPRツールの作成やデータベース化等を行うもの。	・県内伝承団体等へのヒアリングを実施し、教育旅行等のニーズを踏まえた受入先の磨き上げを行うとともに、団体毎の実施プログラムの特色や対象等をまとめたタリフ表を作成したほか、教育旅行等誘致プロモーションでの発信を行った。 今年度実施地域・ヒアリング実施箇所数：県南地区8箇所 プロモーション実施数：18回	○
「東北文化の日」推進事業	消費生活・文化課	1,171	東北全体の文化力の発揮を目指すとともに文化施設を基点として圏域内外の交流人口の拡大を図るため、東北6県及び仙台市が一体となり東北圏域の特色ある文化資源の情報を総合的に発信する。	・東北6県及び仙台市が中心となり、ガイドブックやポスター、HPを通じて、東北県内の市町村及び文化施設等のイベント広報を行った。 「東北文化の日」令和6年10月26日（土）、27日（日） 関連イベント開催期間 令和6年10月26日（土）から11月24日（日）まで 施設数 229施設 イベント数 268イベント 総参加者数 877,653人	○
高規格幹線道路網の整備推進事業	道路課	926,000	観光・産業振興、地域間交流の活性化等を図るため、東北・県土の骨格を形成する高規格幹線道路網の機能強化・利便性向上を進める。	・みやぎ県北高速幹線道路（仮称）栗原ICの整備を推進した。	
仙台空港周辺の道路改善事業	道路課	250,000	仙台空港を東北の「空の玄関口」として発展させるため、空港周辺の道路改善などにより機能強化を図り、交流人口の拡大を支援する。	・名取市笠島地内等の交差点改良などを推進した。	

事業名	担当課	決算額	事業概要	令和6年度実施状況	再掲
仙台空港 600 万人・5 万トン実現推進事業	空港臨空地域課	15,971	LCC 等の航空会社と連携し、航空機の利用促進を図り、新型コロナウイルスで落ち込んだ航空需要の回復及び新たな需要の掘り起こしを行うほか、仙台空港からの航空貨物取扱量増加に向けた核となる商材の掘り起こしなどを行う。	・仙台空港に就航している LCC・ピーチ・アビエーション及び RJ・アイベックスエアラインズ、スカイマークと連携しプロモーションを実施した。 ・仙台国際空港㈱への業務委託により「仙台空港貨物便産地直送フェア」を開催し、航空貨物輸送における商材ニーズの把握や課題の調査・分析を行った。	
文化財を活用した地域活性化事業	文化財課	4,830	持続可能な文化財保護や活用に対する地域の気運醸成、魅力発信を担う人材育成事業等を実施することにより、地域活性化と観光振興を目指す。	・多賀城跡に関わる講演会及び歴史講座等を開催した。 参加人数：講演会 233 人、講座 213 人（2 回計） ・VR ミュージアムのコンテンツを拡充し、特別展「多賀城 1300 年」及び教育普及事業「冬の体験イベント」での体験会を実施した（延べ利用人数 197 人）。 ・体験学習ゾーンの「こども歴史館」において、常設の VR ミュージアム体験ブースを設置・運用した（設置後のこども歴史館の利用人数 5,290 人）。	○

成長戦略 4 合計 62 事業 1,781,864 千円

6 基本計画の実施状況の検証

(1) 数値目標の達成状況

- 令和6年の「宿泊観光客数」は988万人泊で、前年と比較し45万人泊の増加(4.8%の増加、数値目標(回復目標)比99.8%、数値目標(成長目標)比95.0%)となったほか、「外国人観光客宿泊者数」は73.4万人泊で、前年と比較し22万人泊の増加(42.8%の増加、数値目標(回復目標)比146.8%、数値目標(成長目標)比104.9%)、「観光消費額」は4,525億円で、540億円の増加(13.6%の増加、数値目標(回復目標)比113.4%、数値目標(成長目標)比107.7%)となった。「宿泊観光客数」は、令和6年の回復目標として定めた感染症感染拡大前の令和元年水準まで回復し、「外国人観光客宿泊者数」及び「観光消費額」は、ポストコロナの観光需要の回復を見据えた成長目標の数値を上回った。

(2) 具体的な取組状況

- 震災から14年目となった令和6年度は、「新・宮城の将来ビジョン」(以下「ビジョン」という。)の4年目に当たり、ビジョンで掲げた取組の一つである「宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興」を推進するため、280事業を積極的に展開した。
- 具体的な取組について、国内観光客向けには、みやぎ応援ポケモンである「ラプラス」を活用したスタンプラリー等の周遊施策の実施やみやぎのお酒を活用した「コト消費」ツアーの造成等、積極的な誘客プロモーションにより県内周遊の促進を図った。また、教育旅行等コーディネート支援センターを運営し、来県希望者と受入施設とのマッチングを支援したほか、教育旅行バス助成金を交付し、教育旅行の誘致促進を図った。
- 外国人観光客向けには、無線LAN機器の設置や外国語表記の整備等への支援を行い、受入環境整備の充実に取り組んだほか、東北観光推進機構が保有するデータを用いて観光動向分析を実施し、インバウンド向け多言語ホームページ「Visit Miyagi」にて、デジタルを活用した本県の魅力発信を行った。宮城オルレについては、宮城オルレフェア2024の開催や新たな宮城オルレオリジナルグッズの販売のほか、新規コース開設を目指す市町を支援し、蔵王・遠刈田温泉コース及び多賀城コースが、済州オルレから条件付きで認定を得た。また、済州オルレウォーキングフェスティバルに参加し、海外トレッキング愛好者向けにPRを実施した。加えて、トレッキング商品を中心に扱う韓国旅行会社6社を県単独で招請し、宮城オルレを組み込んだツアー商品の造成につなげた。
- 観光客へのアンケート調査を通して、東京電力福島第一原子力発電所事故の風評被害の実態把握に努めたほか、東日本大震災の風化防止のため、震災の伝承施設を紹介する多言語対応の冊子等を製作し、震災の教訓の伝承に取り組んだ。

(3) 今後の取組方針

- 観光需要が増加し、観光業を取り巻く環境が好転している中で、県としては、都市部から地方部への誘客促進するために、地域資源を活用した観光コンテンツの造成や、これらのコンテンツを組み合わせた広域周遊ルートの造成、宿泊施設等の高付加価値やナイトタイムコンテンツ等の滞在コンテンツの充実などに積極的に取り組んでいく必要がある。
- 令和7年3月に「第6期みやぎ観光戦略プラン」を作成し、今後の観光施策の方向性を定めた。ポストコロナにおける新しいみやぎの観光として、これまで以上に地域の観光に光を当てることを軸に、宮城が誇る「食」、「自然」、「歴史・文化・芸術」の魅力向上、地域資源を活用した観光コンテンツの造成のほか、観光業における喫緊の課題である人手不足や省人化・省力化による収益力向上や県内隅々への送客に向けて実効性のある施策を着実に推進していく。